

令和8年度

学 校 学 覧
教 育 計 画



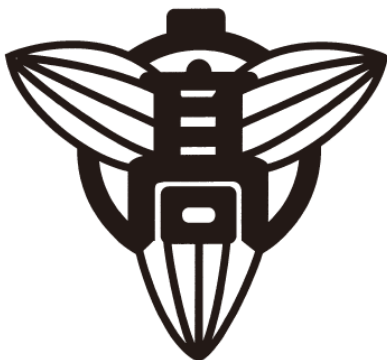
北海道釧路湖陵高等学校全日制課程

目 次

データ表示ページ

1	校 章 ・ 校 訓	3
2	校 歌	4
3	学 校 教 育 目 標 等	5
4	学 校 経 営 シ ラ バ ス	6
5	沿 革	7
6	学級・生徒数及び教職員数	9
7	教 職 員 一 覧	10
8	年 間 行 事 予 定 表	12
9	教 育 課 程 表	14
10	時 程 表	30
11	学 年 ・ 分 掌 ・ 委 員 会 等	31
12	学 年 ・ 分 掌 の 計 画	33
13	特 別 活 動 全 体 計 画	36
14	道 徳 教 育 全 体 計 画	37
15	学 校 保 健 計 画	38
16	学 校 安 全 計 画	39
17	部 活 動 ・ 外 局	40
18	学 校 図 書 館	41
19	学 校 防 災 組 織	41
20	生 徒 状 況	42
21	生 徒 会 組 織	42
22	卒 業 生 概 況	43
23	校 舎 配 置 図	44
24	校 舎 平 面 図	45
25	P T A 等 役 員	46

校章



校訓

誠愛勇

◇ 校 章 ◇ (昭和22年制定)

旧制釧路中学校の熊笹六葉を三葉とし、「高」の文字を中に入れた立山昌司氏(当時の在校生)の案に久本春雄画伯(当時の美術教諭)が釧路のいわれである腕輪を加えて作成したものである。
(「釧中物語」による)

◇ 校 訓 ◇ (昭和2年制定) 第三代 平 澤 虎 一 校長 制定

◇ 校 歌 の 由 来 ◇ (昭和3年制定)

釧中13期生の担当教諭であった菅原覚也氏(本行寺4代目住職)が、当時、釧中校歌の一般公募に投稿、最優秀作品として表彰され、その後、文学博士高野辰之氏の校閲を経て正式に採用されたものである。菅原氏は、昭和36年に没したが、歌詞の「五星霜」が「三星霜」に変わっただけで、湖陵高校校歌として尚歌いつがれていることに変感謝していたという。
作曲家信時 潔氏(1887~1965)は、日本を代表する作曲界の先駆者であり、作風は古典的で、素朴な歌曲を多く残した。1910年、東京音楽学校本科(現東京芸大)卒業、その後ドイツに留学し帰国後(1923)母校の教授となる。1942年 芸術院会員・1963年 文化功労者。主な作品に「海ゆかば」など、地元では、「釧路市の歌」・「北教大釧路校校歌」がある。

◇ スクールカラー ◇ 真 紅 (戦前の釧路中学時代より受け継がれている)

応援歌No.2の三番の歌詞に「真紅の旗はだてじゃない」とあって古くから歌いつがれている。

北海道釧路湖陵高等学校校歌

昭和3年制定

菅原 覚也 作詩

信時 潔 作曲

高野 辰之 校閲

♩ = 約96

日 出 づ る く に の ほ く す る に 一 く し び を け づ る ま
 す ら を の 一 こ そ 十 一 州 一 に こ だ ま し て 一 ひ か り あ ま
 ね し え ぞ が は ら 一 み よ 東 一 方 一 の く し ろ ぎ
 き 一 湖 陵 に た て る わ が が く 舎 一

一、日出づる国の北陲に

神秘を削る丈夫の

関十一州に反響して

曙光あまねし蝦夷が原

瞻よ東方の釧路岬

湖陵に立てる我が学舎

二、攻学の心自治の魂

久遠の使命胸に秘め

鈴蘭薫る春採の

丘に微笑む若人が

誠を雪に類へつつ

理想は高し阿寒山

三、学の苑に日暮の

師恩を讃う三星霜

愛ゆかしき兄弟よ

吹雪く曠野も荒海も

訓の道を守りつつ

共に進まん勇ましく



北海道釧路湖陵高等学校

学校教育目標等（全日制課程）



スクール・ミッション

- 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる人材の育成
- 向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成
- 多様化する国際社会において主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成

学校教育目標

よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、

- 自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。
- 主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。
- 他者を尊重し、ともに高め合う、人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。

スクール・ポリシー

○ グラデュエーション・ポリシー（湖陵GP）

探究力、創造力、国際的コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成

- ア 自ら学ぶ力を持ち、探究力、創造力、国際的コミュニケーション力の基盤となる強固な体系的知識を身につけた生徒
- イ 論理的、多角的で柔軟な思考によって、自ら課題に気づき、周囲と協働して課題解決に取り組むことができるリーダー性を身につけた生徒
- ウ 将来のイノベーションを実現しうる創造性と、先鋭的な領域へ挑戦するマインドを持つ生徒
- エ 異なる文化や価値観を寛容する姿勢を持ち、国際的な場面に挑戦しようとする行動力と語学力を身につけた生徒
- オ 自らの変容を客観的に評価し、学びのプロセスを主体的に構築することができる生徒

○ カリキュラム・ポリシー（湖陵CP）

多様な学びに対応する教育課程の編成と目指すべき生徒育成のための柱

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ア 全ての教科・科目の方針 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 主体的で対話的な深い学びを目指す授業改善の推進 (イ) 自己の成長・変容に気づく適切な学習評価の実施 (ウ) I C T 活用による個別最適化した学習の推進 (エ) 進路希望を見据えた適切な科目選択の推進 イ スーパーサイエンスハイスクール事業等の方針 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 科学的な探究手法を用いた探究活動の充実 (イ) 医進類型事業の充実 (ウ) 外部人材を活用した活動の充実 (エ) ルーブリックを活用した探究活動に係る資質・能力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ウ キャリア教育の方針 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 3年間の系統的なキャリア教育の可視化 (イ) 積極的な進路情報の発信 (ウ) 外部テストを用いた学習状況の把握と分析 (エ) 高大連携の推進 エ 特別活動の方針 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 仲間と協働し合意形成したり、協調して行動する力の育成 |
|---|---|

○ アドミッション・ポリシー（湖陵AP）

本校が求める生徒像

基本的な生活習慣が身に付いており、学習活動はもとより、学校内外の諸活動に積極的に参加する生徒で、それぞれの学科において次のいずれにも該当する生徒

- | | |
|--|--|
| <p>文理探究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 知的探究心があり、現代的な諸課題等について、他者と協働しながら課題の解決や新たな価値の創造に向けて、主体的に学ぶことができる生徒 イ 社会科学や人文科学、自然科学など、幅広い学習分野に興味・関心がある生徒 | <p>理数探究科</p> <ul style="list-style-type: none"> ア 知的探究心があり、現代的な諸課題等について、他者と協働しながら課題の解決や新たな価値の創造に向けて、主体的に学ぶことができる生徒 イ 特に、理科や数学など、自然科学分野の学習に興味・関心が高い生徒 |
|--|--|

令和8年度 北海道釧路湖陵高等学校 学校経営シラバス(全日制課程)

学校教育目標	学校の使命(スクールミッション)
<p>よりよい未来の共創を目指して、主体的に社会の形成に参画しながら、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーを育成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら学び、考える、心身ともに鍛え、高い知性を身に付けた人を育てます。 ○ 主体的に計画し、行動する、創造性豊かで、高い志をもった人を育てます。 ○ 他者を尊重し、ともに高め合ふ人間性豊かで、高い道徳心をもった人を育てます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次代を担うグローバルリーダーとして、新たな社会的な価値の創造と科学技術分野の発展に貢献できる生徒の育成 ○ 多様化する国際社会において、主体的かつ協働的に取り組む資質・能力を身に付けた生徒の育成 ○ 校訓「誠 愛 勇」のもと、向学心や探究心を高めながら、自己の進路実現に向けて意欲的に学校生活に取り組む生徒の育成

3つの方針(スクール・ポリシー)	
<ul style="list-style-type: none"> ○ グラデュエーション・ポリシー(湖陵GP):「探究力、創造力、国際コミュニケーション力を身に付けた生徒の育成」 ○ カリキュラム・ポリシー(湖陵CP):「多様な学びに対応する教育課程の編成と目指すべき生徒育成のための柱」 ○ アドミッション・ポリシー(湖陵AP):「本校が求める生徒像」 	※詳細は省略

学校経営方針
<ul style="list-style-type: none"> ○ スクール・ポリシーを踏まえ、入学から卒業までの体系的かつ継続性のある教育活動を展開し、目指すべき学校像として再定義されたスクール・ミッションの達成を図りながら学校教育目標を達成する(湖陵高校のブランディングを推進する)。 ○ 「探究力、創造力、国際コミュニケーション力」をバランスよく身に付けさせる教育活動を推進するとともに、自己の在り方生き方を考えさせながら、よりよく課題を発見し解決するための資質・能力を育む探究的な学習活動の充実を図る。 ○ 「志を高く持ち、易きに流れない」理念をカリキュラム全体で実現するとともに、地域等との連携による社会に開かれた教育課程を着実に推進する。 ○ 服務規律の遵守はもとより、教員のライフステージを踏まえながら、自己研修を奨励したり、校内研修等を計画的に実施したりするなど、教職員の資質・向上を図る人材育成に努める。 ○ 「北海道アクションプラン」等を踏まえ、効率的な校務運営に努めるなど、Well-beingを標榜する教職員の働き方改革を推進する。

対象	中期目標(～R8)	今年度の目標	目標達成のための具体的な取組(評価の観点)
学習指導	◎主体的に学ぶ意欲と学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ KCS・KQ・総合的な探究の時間だけでなく、教育活動全体で探究的な学びの充実を図る。 ○ 生徒の学習成果を公平かつ正當に判断する評価方法について、一層の改善を図る。 ○ 教科等横断的な学習の充実に努める。 ○ ICT機器の活用について研修に努める。 ○ 教育課程や教務内規の在り方について検証し、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SSH推進部との連携や校内研修などを活用し、適切に実施できる環境を整える。 ○ 現在の評価の在り方の問題点を検証し、評価時期、評価方法のより適切な在り方を取り入れた内規の改正に取り組む。 ○ 互見授業などにより教員間の連携を密にするとともに、教育局の事業なども活用しながら取り組む。 ○ 機器の活用方法はもとより、AIの教育活動への活用方法などについても研修に取り組む。 ○ 現在の問題点を整理し、次年度に向けて改善案の作成に取り組む。
生徒指導	◎自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が主体となって学校の諸課題を解決しようとする雰囲気醸成に努める。 ○ いじめ問題への対応を始め、適切な生徒指導が行えるよう、指導の際の留意点等についての共通認識が持てるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒会執行部との連携を密にし、生徒からの要望を吸い上げることができる機会を多く設ける。 ○ 部長主任会議や職員会議・朝の打ち合わせ等により情報共有を密に行い、日頃より生徒の実態把握に努める。また、生徒への指導や生徒からの聞き取りの際に注意しなければいけない点等について、法的な観点からも知識を深めることができるよう、研修の場を設定する。
キャリア教育(進路指導)	◎自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3年間の見通しを持ち、志を高く持った進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○ 生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○ 生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○ 生徒・保護者等を支援するため、教職員による情報収集を計り、適切な情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が進路実現に向けて主体的に活動できるように教育課程を含んだ学校体制の改革に取り組む。 ○ 学習実態調査(2回)や模試分析を行い、学年団で情報共有することで、生徒の主体的な学習の促進につなげる。 ○ 生徒・保護者説明会を時期に応じて講師(教員、外部、卒業生等)を変えて、実施する。 ○ 変化しつつある各大学のアドミッションポリシーや受験システムに対応するため、教職員の研修会を実施する。更に各種研究会や検討会の参加を促し生徒に適切な情報を発信する。
健康・安全指導	◎心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ○ 心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○ 防災や危機管理に関する意識の向上を図る。 ○ 教育相談に関するスキルの向上と組織的な取り組みを推進する。 ○ 各種アンケートを活用法と評価の充実改善を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的に情報発信し、健康に関する意識を高め、自己管理できるような支援を実施する。 ○ 防災避難訓練を通して放火防災意識の向上に努めると共に、減災を意識した生活態度の涵養に取り組む。 ○ サポート委員会や分掌・学年間の情報共有を密にする。スクールカウンセラー等との連携を通じた、個々の生徒への適切な対応に取り組む。 ○ 学年や他分掌と連携しながら各種アンケートを実施し、生徒や教職員に適切にフィードバックすることで、生徒のより深い理解に努める。
理数教育	◎SSH事業を活用した探究能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ Eプランによる研究支援の充実を図る。 ○ 外部連携の拡大により、探究的な学びの充実に努める。 ○ SSH事業の普及に努める。 ○ Koryo Agencyの育成を踏まえ、現行の取組の整理と改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ KCSやKQ、探究部でEプランを作成する機会を設け、申請件数の増加に取り組む。 ○ コンソーシアムやSSH校と連携し、探究力の育成に取り組む。 ○ 外部団体が実施する学会、発表会への参加の促進に取り組む。 ○ 評価委員会を実施し、Koryo Agencyを構成するコンピテンスを測定する方法の研究開発を行う。

3 沿 革

- 大正元・8 北海道庁立釧路中学校設立認可（8月31日）
- 〃 2・4 第1回入学式挙行
 - 1学級募集（入学定員50名）
- 〃 2・9 本校舎完成
- 〃 2・11 開校式挙行
- 〃 8・4 2学級募集（入学定員100名）
- 〃 11・4 3学級募集（入学定員150名）
- 〃 13・5 4教室増築
- 昭和2・10 「誠」「愛」「勇」の校訓制定
- 〃 3・3 平屋2教室増築
- 〃 3・4 校歌制定
- 〃 3・6 父兄会を創立
- 〃 4・1 父兄会から柔道場寄付
- 〃 9・4 校友会から図書室寄付
- 〃 9・12 父兄会から工作室寄付
- 〃 11・8 屋外運動場を拡張
- 〃 12・12 父兄会から剣道場寄付
- 〃 15・4 4学級募集（入学定員200名）
- 〃 16・3 父兄会から銃器室寄付
- 〃 17・4 5学級募集（入学定員250名）
- 〃 23・4 道立釧路高等学校ならびに併置中学校と改称
 - 高校1・2年5学級 3年3学級 小計636名
 - 併中3年5学級 計276名 合計912名
- 〃 24・3 第1回卒業式挙行（釧路高等学校）
- 〃 24・4 6学級募集（入学定員300名）
- 〃 25・4 北海道釧路湖陵高等学校と改称
 - 学区制による男女共学実施 生徒数958名
 - 女子用便所改築2・木工室を改造し物理教室、生物教室及び準備室とする。
 - 普通教室2を被服室に改造
 - 平屋3教室をろう学校に貸付
 - 図書館改造3教室（普通教室）南中学校に貸付
- 〃 26・4 商業課程2学級新たに募集
- 〃 26 北海道釧路富士見高等学校（市立）を吸収し定時制普通科3間口をおく
 - 吸収以前の沿革は次段のとおり

- 大正12・4・1 私立釧路商業中等学校（夜間3年制）として開校
- 昭和20 釧路市立中学校と改称
- 〃 23 釧路市立高等学校と改称し併置中学校をおく
- 〃 25・7 北海道釧路富士見高等学校と改称

- 昭和26 定時制音別（尺別）、上尾幌に分校開校
- 〃 26・11 4教室増築着工
- 〃 27・3 同竣工
- 〃 27 定時制上尾幌分校、江南高校に移設
- 〃 27・9 創立40周年記念式典行う（9月21日）
- 〃 28 定時制・音別高校独立
- 〃 28・2 出火、校舎1,288焼失（2月22日）
 - 第1体育館等360坪を残す
 - 災害復旧対策委員会設立
 - 市長佐熊宏平委員長就任
 - 同議会復興決議
- 〃 28・4 入学式を公民館において行い残存校舎に仮工事をなし、1・3年16学級を収容し、東中に2年8学級教室の貸与を受け28年度授業開始
- 〃 28・6 6千万円の中央起債承認第1期工事として鉄筋3階建792.37坪を田中組と契約
- 〃 28・7 1,400万円の道費700万円の市の寄付を決定し、第2期工事鉄筋ブロック2階建（6教室）田中組と契約
- 〃 28・9 地鎮祭挙行
- 〃 29・9 落成式挙行（9月22日）
 - 校舎竣工移転完了
- 〃 30・3 男子便所10坪新設
- 〃 31・3 道議会において屋内体育館につき次の通り議決移築115坪
 - 新築218坪（渡り廊下18坪を含む）
 - 総工費810万円（内半額地元負担）
- 〃 31・4 定時制課程4間口をおく
- 〃 31・9 屋内体育館落成式挙行
- 〃 34・3 商業課程募集停止
 - 物置及び石炭庫竣工
- 〃 37・4 学級増募入学定員450名9学級
- 〃 37・8 50周年記念図書館102坪竣工

昭和 37・9 全日制課程 50 周年・定時制課程 40 周年記念式典挙行（9 月 13 日）

〃 37・12 普通教室 2 増築

〃 38・12 普通教室 2 増築

〃 39・10 生徒南玄関増築

〃 40・4 定時制・40 周年記念誌発行

〃 41 定時制 E T A（職場と学級を結ぶ会）設立

〃 42・8 校舎全面漏水防止塗装施行（第 1 期）

〃 43・6 50 周年記念館建設地鎮祭（150 坪）

〃 43・9 運動場照明施設建設
校舎全面漏水防止塗装施行（第 2 期）
屋内体育館床張り替え（第 2 期）

〃 43・10 50 周年記念館落成

〃 44・4 理数科設置、入学定員 40 名、1 学級
普通科入学定員 360 名、8 学級

〃 44・8 理科 3 教室改修工事完成

〃 47・9 60 周年記念式典挙行（9 月 10 日）

〃 48・12 被服実習室新築（144 m²、総工費 742 万円）

〃 50・4 定時制課程 1 間口減、3 間口となる

〃 51・4 普通科入学定員 405 名、9 学級

〃 51・12 男子便所増築（77 m²、総工費 883 万円）
普通教室 3 増築（532 m²、総工費 2,209 万円）

〃 57・4 定時制課程 1 間口減、2 間口となる

〃 58・9 全日制課程 70 周年・定時制課程 60 周年記念式典挙行（9 月 17 日）

〃 62・7 校舎移転改築決定

〃 63・6 校地造成・外構工事着工

平成 2・9 校舎移転

〃 3・9 全日制課程 80 周年・定時制課程 70 周年記念式典並びに校舎落成記念式典挙行（9 月 29 日）

〃 6・4 普通科入学定員 378 名、9 学級
（1 学級の定員 42 名となる）

〃 7・4 普通科入学定員 369 名、9 学級
（1 学級の定員 41 名となる）
平成 7 年定時制課程 3 年生 1 間口減

〃 8・3 第 2 屋内体育館完成

〃 8・4 普通科入学定員 360 名、8 学級
（1 間口減、1 学級の定員 40 名となる）
平成 8 年定時制課程 1 年生、4 年生 1 間口減

〃 9・4 平成 9 年定時制課程 2 年生 1 間口減
定時制課程 1 間口となる

〃 10・3 第 50 回卒業式挙行（3 月 1 日）

〃 11・3 トイレ・シャワー棟完成（避難場所、施設の

指定による)

平成 12・4 普通科入学定員 280 名、7 学級
（1 間口減となる）

〃 14・9 全日制課程 90 周年・定時制課程 80 周年記念式典挙行（9 月 21 日）

〃 15・2 第 1 屋内体育館暖房改修工事完成

〃 15・4 文部科学省の学力向上フロンティアハイスクール事業指定校（平成 17 年度まで）

〃 16・4 普通科入学定員 240 名、6 学級
（1 間口減となる）

〃 21・4 普通科入学定員 200 名、5 学級
（1 間口減となる）

〃 22・4 普通科入学定員 240 名、6 学級
（1 間口増となる）

〃 23・4 普通科入学定員 200 名、5 学級
（1 間口減となる）

〃 24・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（S S H）事業指定校（I 期）

〃 24・9 全日制課程 100 周年・定時制課程 90 周年記念式典挙行（9 月 29 日）

〃 25・4 阿寒高校とのセンター・キャンパス校開始

〃 27・1 大規模改修工事完了

〃 28～29 アクティブ・ラーニング実践研究（S C R U M）道東地区研究拠点校指定

〃 30・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（S S H）事業指定校（II 期）

令和 4・4 文部科学省の新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）指定校

〃 4・9 全日制課程 110 周年・定時制課程 100 周年記念式典挙行（9 月 22 日）

〃 5・4 文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（S S H）事業指定校（III 期）

〃 6・4 理数科は理数探究科へ学科転換
（入学定員 40 名、1 学級）
普通科は文理探究科へ学科転換
（入学定員 160 名、4 学級）

6 学級・生徒数及び職員数

学級数

課程	科別	学年			計
		1年	2年	3年	
全日制	理数探究科	1	1	1	3
	文理探究科	4	4	4	12

職員数

区分 課程	校 長	常 勤								合 計	非 常 勤						合 計	
		副 校 長	教 頭	主 幹 教 諭	教 諭	養 護 教 諭	事 務 員	実 習 職 員	業 務 助 手		A L T	S S H 支 援 員	時 間 講 師	産 業 医	学 校 医	学 校 歯 科 医		学 校 薬 劑 師
全 日 制	1	1	1	1	40	1	5	3	1	54	1	1	3	1	1	1	1	9

生徒数

令和8年5月1日

	H・R	男	女	計	H・R	男	女	計	H・R	男	女	計
理数探究科	1年1組	22	18	40	2年1組	27	13	40	3年1組	24	14	38
文理探究科	1年2組	17	23	40	2年2組	19	21	40	3年2組	17	22	39
	1年3組	16	24	40	2年3組	19	20	39	3年3組	17	22	39
	1年4組	18	22	40	2年4組	18	20	38	3年4組	17	22	39
	1年5組	18	22	40	2年5組	19	20	39	3年5組	18	22	40
	計	91	109	200	計	102	94	196	計	93	102	195
理数探究科	男	73	女	45	計	118						
文理探究科	男	213	女	260	計	473	総計 591 (男 286 女 305)					

8 令和8年度（2026年度）年間計画

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	水	学年始休業	1	金	1年SC講話	1	月	高体連全道壮行会	1	水	学年部会	1	土	教採試験2次会場 夏期講習Ⅱ(～5)	1	火	第2回定期試験
2	木		2	土		2	火	第1回定期試験	2	木		2	日	教採試験2次会場	2	水	学年部会
3	金	部長主任会議	3	日	憲法記念日 小論文模試①	3	水	学年部会	3	金	避難訓練①、1年防災学習 分掌部会	3	月		3	木	
4	土		4	月	みどりの日	4	木		4	土		4	火		4	金	
5	日		5	火	こどもの日	5	金	3年進路説明会	5	日	英検二次	5	水		5	土	
6	月	職員会議	6	水	振替休日	6	土		6	月	部長主任会議 サポート委員会	6	木		6	日	
7	火		7	木		7	日		7	火		7	金		7	月	追試験(～10) 7増
8	水	着任式・始業式・入学式 学年部会	8	金	高体連地区壮行会 分掌部会	8	月	追試験(～11日) 分掌部会	8	水	学年部会	8	土	全統共テ模試②	8	火	
9	木	1年個人写真・全HR写真撮影 新入生歓迎会	9	土	全統共テ模試①	9	火		9	木		9	日		9	水	学年部会
10	金	1年スタボ・尿検査① 2,3年課題テスト	10	日		10	水	学年部会	10	金	湖陵祭①	10	月		10	木	
11	土	3年学力記述模試	11	月	面談週間(5短) 教育実習(～22日)	11	木		11	土	湖陵祭②	11	火	山の日 学校閉庁日①	11	金	
12	日		12	火		12	金		12	日	湖陵祭③	12	水	学校閉庁日②	12	土	ベネ駿共テ①模試
13	月	1年課題テスト 分掌部会	13	水	看護ガイダンス 学年部会	13	土	教採会場準備(午後～)	13	月	振替休日(7/11分)	13	木	学校閉庁日③	13	日	
14	火	1年心電図・X線(午後)	14	木		14	日	教員採用試験会場 公務員模試③	14	火	振替休日(7/12分)	14	金	学校閉庁日④	14	月	分掌部会
15	水	学年部会	15	金		15	月	部長主任会議 学年部会	15	水	学年部会	15	土	学校閉庁日⑤	15	火	
16	木	1年宿泊研修① 3年内科検診(午後)	16	土	全統記述模試① 公務員模試②	16	火		16	木	2年SC講話	16	日	東大・京大模試	16	水	学年部会
17	金	1年宿泊研修②	17	日		17	水	7増	17	金	成績会議、職員会議	17	月	振替休日(9/26分)	17	木	体育大会①
18	土		18	月	7増	18	木	部長主任会議	18	土	公務員模試④	18	火	職員健診	18	金	体育大会②
19	日		19	火		19	金	サポート委員会	19	日	小論文模試②	19	水		19	土	
20	月	部長主任会議 サポート委員会	20	水	学年部会	20	土		20	月	海の日	20	木	登校開始 課題テスト	20	日	
21	火	薬物乱用防止教室 歯科検診①(午前)	21	木		21	日		21	火		21	金	ネットモラル学習会(6h) 分掌部会	21	月	敬老の日
22	水	歯科検診②(午前) 学年部会	22	金	教育実習最終日 サポート委員会・英検1次	22	月	職員会議	22	水	学年部会	22	土	全統高2模試 全統記述模試②	22	火	国民の休日 開校記念日
23	木	2年内科検診(午後)	23	土	ベネッセ共テ模試 (定体連ハド会場1体)	23	火		23	木		23	日		23	水	秋分の日 早慶レベル模試
24	金	生徒総会 身体測定	24	日		24	水	学年部会	24	金	全校集会	24	月	部長主任会議 サポート委員会	24	木	
25	土		25	月	職員会議	25	木		25	土	夏季休業 夏期講習Ⅰ(～29)	25	火	試験時間割発表	25	金	部長主任会議
26	日	公務員模試①	26	火	試験時間割発表	26	金	振替休日(4/29湖陵の日)	26	日		26	水	学年部会	26	土	土曜授業 中3向け学校説明会
27	月	職員会議	27	水	学年部会	27	土	1,2年学力テスト 3年ベネッセ記述	27	月		27	木		27	日	
28	火	尿検査②	28	木		28	日	野球全校応援 (6/27に変更の場合あり)	28	火		28	金	統一学校説明会 7増	28	月	
29	水	(昭和の日)湖陵の日 PTA総会・進路説明会 学年部会	29	金	尿検査③ 7増	29	月	振替休日(全校応援日分)	29	水		29	土	看護模試②	29	火	
30	木	1年内科検診(午後)	30	土	看護模試①	30	火		30	木		30	日		30	水	前期修了日(5hまで) 職員会議、中間反省会議
			31	日					31	金	教採試験2次会場	31	月	職員会議			
17			18			21			17			8			20		

10月		11月		12月		1月		2月		3月		
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	
1	木	後期始業日 面談週間(5短)	1	日		1	火	○	1	月	○	卒業式
2	金	3年SC講話 英検一次	2	月	○	2	水	○	2	火	○	学力検査会場設営
3	土		3	火	文化の日 個別大オープン	3	木	○	3	水	○	学力検査日 (生徒休業日)
4	日		4	水	○	4	金	○	4	木	○	採点① (生徒休業日)
5	月	面談週間(5短)	5	木	○	5	土	○	5	金	○	採点② (生徒休業日)
6	火		6	金	○	6	日		6	土		
7	水	成績会議	7	土		7	月	○	7	日		
8	木	面談週間(5短)	8	日	英検二次	8	火	○	8	月	○	推薦入学面接会場設営
9	金	2年見学旅行団団活式	9	月	○	9	水	○	9	火		
10	土		10	火	○	10	木	○	10	水	○	(学力検査追検査日) 部長主任会議、学年部会
11	日		11	水	○	11	金	○	11	木	○	卒業生講話
12	月	スポーツの日	12	木	○	12	土		12	金	○	入選会議、発表準備 (生徒自宅学習)
13	火	見学旅行①	13	金	○	13	日		13	土		
14	水	見学旅行②	14	土	○	14	月	○	14	日		
15	木	見学旅行③ 学年部会	15	日	○	15	火	○	15	月	○	1年スタサポ 7増
16	金	見学旅行④	16	月	○	16	水	○	16	火	○	合格発表日
17	土	見学旅行⑤ 全統共テ模試③	17	火	○	17	木	○	17	水	○	学年部会
18	日		18	水	○	18	金	○	18	木	○	
19	月	2年振替休日	19	木	○	19	土		19	金	○	職員会議 進級認定会議
20	火		20	金	○	20	日		20	土		
21	水	学年部会	21	土	○	21	月	○	21	日		春分の日
22	木	避難訓練② 2年防災学習	22	日		22	火	○	22	月	○	振替休日
23	金	分掌部会	23	月	○	23	水	○	23	火	○	
24	土	駿台個別大模試	24	火	○	24	木	○	24	水	○	修了式・離任式
25	日		25	水	○	25	金	○	25	木	○	学年末休業
26	月	部長主任会議	26	木	○	26	土		26	金		
27	火		27	金	○	27	日		27	土		
28	水	学年部会	28	土		28	月		28	日	○	卒業式予行
29	木	生徒会役員選挙	29	日		29	火		29	月		
30	金	職員会議	30	月		30	水		30	火		
31	土	1,2年学力テスト ベネ駿共テ模試③				31	木		31	水		

令和8年度 入学者教育課程表 文理探究科

A 表

(表 面)

第1学年の
学 級 数

4

教育局		釧路		北海道釧路湖陵高等学校		全日制課程		学科		文理探究科	
教科	科目・標準単位数	学年		1 年	2 年	3 年	計				
		科目	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数			
国語	現代の国語	2	2	2			2				
	言語文化	2	2				2				
	論理国語	4			2			0~4			
	文学国語	4			2		2	4			
	国語表現	4									
	古典探究	4			2		2	4			
地理歴史	地理総合	2	2					2			
	地理探究	3			3			0~3			
	歴史総合	2	2					2			
	日本史探究	3			3			0~3			
	世界史探究	3			3			0~3			
	○ゼミナール地理	3					3	0~3			
	○発展日本史	3					3	0~3			
	○発展世界史	3					3	0~3			
公民	公共倫理	2			2			2			
	政治・経済	2					2	0~2			
	○時事問題研究	3					3	0~3			
数学	数学Ⅰ	3	3					3			
	数学Ⅱ	4									
	数学Ⅲ	3									
	数学A	2									
	数学B	2									
	数学C	2									
	○数学研究Ⅰ	2					2	0~2			
	○数学研究Ⅱ	2					2	0~2			
	○KS数学Ⅰ	2	2					2			
	○KS数学Ⅱ	6			6			6			
理科	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2		★4			2			
	物理	4									
	化学基礎	2			2		☆14	※14			
	化学	4									
	生物基礎	2	2					2			
	生物	4									
	地学基礎	2			2			0~2			
	地学	4									
	科	○KS物理	2					2	0~2		
			5			2		3	0~5		
		○KS化学	2					2	0~2		
			3					3	0~3		
			5					5	0~5		
○KS生物		2					2	0~2			
	5			2		3	0~5				
○KS地学	2					2	0~2				
保健体育	体育	7~8	2		2		3	7			
	保健	2	1		1			2			
芸術	音楽	Ⅰ	2	2				0~2			
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
	美術	Ⅰ	2	2					0~2		
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
	工芸	Ⅰ	2								
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
		書道Ⅰ	2	2					0~2		
書道	書道Ⅱ	2									
	書道Ⅲ	2									
	○音楽表現	2					2	0~2			
	○美術表現	2					2	0~2			
○書道表現	2					2	0~2				

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日課程

学科

文理探究科

教科	科目・標準単位数	学年			計	
		1 年	2 年	3 年		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		3	
	英語コミュニケーションⅡ	4	4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2	2		2	
	論理・表現Ⅲ	2		2	2	
	○応用英語 ○SS英語	2	2	2	0~2 2	
家庭	家庭基礎	2	2		2	
	家庭総合	4				
情報	情報Ⅰ	2				
	○SS情報	2	2		2	
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2~5				
○総合	○Koryo Quest	3	3		3	
教員基礎	教員基礎	1	1		1	
	教員基礎探究	1		1	1	
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0	
学校設定教科に関する科目の計		3	0~1	0~1	3~5	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3~6	0	2	1	3~5
合計		32	32~33	31~32	95~97	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	
教育課程に係るその他の事項						
卒業までに修得させる単位数		95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	○ 1 分離している ○ 2 分離していない	
学期の区分		1 3学期制 ○ 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している ○ 2 実施していない	
1 単位時間の弾力化		○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()				
学校外における学修の単位認定		○ 1 実施している (③) 2 実施していない				
総合的な探究の時間の実施方法		○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。				
備考		教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 3年の「ゼミナール地理」(3単位)は2年次に「地理探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展日本史」(3単位)は2年次に「日本史探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展世界史」(3単位)は2年次に「世界史探究」(3単位)を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」「教員基礎探究」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。				

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和8年度 入学者教育課程表 文理探究科

A 表

(表 面)

第1学年の
学 級 数

4

教育局		釧路		北海道釧路湖陵高等学校		全日制課程		学科		文理探究科	
教科	科目・標準単位数	学年		1 年	2 年	3 年	計				
		科目	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数	標準単位数			
国語	現代の国語	2	2	2			2				
	言語文化	2	2				2				
	論理国語	4			2		2	0~4			
	文学国語	4			2		2	4			
	国語表現	4									
	古典探究	4			2		2	4			
地理歴史	地理総合	2	2					2			
	地理探究	3			3			0~3			
	歴史総合	2	2			3		2			
	日本史探究	3			3			0~3			
	世界史探究	3			3			0~3			
	○ゼミナール地理	3					3	0~3			
	○発展日本史	3					3	0~3			
	○発展世界史	3					3	0~3			
公民	公共倫理	2			2			2			
	政治・経済	2					2	0~2			
	○時事問題研究	3					3	0~3			
数学	数学Ⅰ	3	3					3			
	数学Ⅱ	4									
	数学Ⅲ	3									
	数学A	2									
	数学B	2									
	数学C	2									
	○数学研究Ⅰ	2					2	0~2			
	○数学研究Ⅱ	2					2	0~2			
	○KS数学Ⅰ	2	2					2			
	○KS数学Ⅱ	6			6			6			
理科	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2	★4				2			
	物理	4									
	化学基礎	2			2	☆14	※14	0~2			
	化学	4									
	生物基礎	2	2					2			
	生物	4									
	地学基礎	2			2			0~2			
	地学	4									
	科	○KS物理	2				2		0~2		
			5			2	3		0~5		
		○KS化学	2					2		0~2	
			3					3		0~3	
			5					5		0~5	
○KS生物		2					2		0~2		
	5			2		3		0~5			
○KS地学	2					2		0~2			
保健体育	体育	7~8	2		2		3	7			
	保健	2	1		1			2			
芸術	音楽	Ⅰ	2	2				0~2			
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
	美術	Ⅰ	2	2					0~2		
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
	工芸	Ⅰ	2								
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
	書道	Ⅰ	2	2					0~2		
		Ⅱ	2								
		Ⅲ	2								
○音楽表現		2					2	0~2			
○美術表現		2					2	0~2			
○書道表現		2					2	0~2			

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日課程

学科

文理探究科

教科	科目・標準単位数	学年			計	
		1 年	2 年	3 年		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		3	
	英語コミュニケーションⅡ	4	4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2	2		2	
	論理・表現Ⅲ	2		2	2	
	○応用英語 ○SS英語	2	2	2	0~2 2	
家庭	家庭基礎	2	2		2	
	家庭総合	4				
情報	情報Ⅰ	2				
	○SS情報	2	2		2	
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2~5				
○総合	○Koryo Quest	3	3		3	
教員基礎	教員基礎	1	1		1	
	教員基礎探究	1		1	1	
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0	
学校設定教科に関する科目の計		3	0~1	0~1	3~5	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3~6	0	2	1	3~5
合計		32	32~33	31~32	95~97	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	
教育課程に係るその他の事項						
卒業までに修得させる単位数		95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	○ 1 分離している ○ 2 分離していない	
学期の区分		○ 1 3学期制 ○ 2 2学期制	学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している ○ 2 実施していない		
1 単位時間の弾力化		○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間で、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()				
学校外における学修の単位認定		○ 1 実施している (③) 2 実施していない				
総合的な探究の時間の実施方法		○ 1 週時程に位置付けて実施する。 ○ 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。				
備考	教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 3年の「ゼミナール地理」(3単位)は2年次に「地理探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展日本史」(3単位)は2年次に「日本史探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展世界史」(3単位)は2年次に「世界史探究」(3単位)を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」「教員基礎探究」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。					

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和7年度 入学者教育課程表 理数探究科

A 表

(表 面)

教育局	釧路	北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	理数探究科	第1学年の 学級数	1
-----	----	-------------	-------	----	-------	--------------	---

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年		2 年		3 年		計		
					α	β	α	β	α	β	
国語	現代の国語	2	2							2	
	言語文化	2	2							2	
	論理国語	4									
	文学国語	4		2		2				4	
	国語表現	4									
	古典探究	4			2		2			4	
地理歴史	地理総合	2	2							2	
	地理探究	3		3	└─ 3					0~3	
	歴史総合	2	2							2	
	日本史探究	3		3	└─ 3					0~3	
	世界史探究	3		3						0~3	
	○ゼミナール地理	3				3	└─ 3			0~3	
	○発展日本史	3				3				0~3	
	○発展世界史	3				3				0~3	
	公民	2		2						2	
公民	公倫	2									
	政治・経済	2									
	○時事問題研究	3				3				0~3	
	数学	数学 I	3								
数学 II		4									
数学 III		3									
数学 A		2									
数学 B		2									
数学 C		2									
科理	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2									
	物理	4									
	化学基礎	2									
	化学	4									
	生物基礎	2									
	生物	4									
	地学基礎	2									
保健体育	地学	4									
	保健体育	7~8	2	2		3			7		
芸術	音楽 I	2	2	└─ 2						0~2	
	音楽 II	2									
	音楽 III	2									
	美術	美術 I	2	2	└─ 2						0~2
		美術 II	2								
		美術 III	2								
	書道	工芸 I	2								
		工芸 II	2								
		工芸 III	2								
		書道 I	2	2	└─ 2						0~2
書道 II		2									
書道 III	2										
外国語	英語コミュニケーション I	3	3							3	
	英語コミュニケーション II	4			4					4	
	英語コミュニケーション III	4				4				4	
	論理・表現 I	2									
	論理・表現 II	2			2					2	
	論理・表現 III	2				2				2	
	○SS英語	2	2							2	
家庭	家庭基礎	2	1							1	
	家庭総合	4									
情報	情報 I	2									
	情報 II	2									
	○SS情報	2	1		1					2	
理数	理数探究基礎	1									
	理数探究	2~5									

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年		3 年		計	
				α	β	α	β	α	β
理数	理数数学Ⅰ	5~9							
	理数数学Ⅱ	8~12							
	理数数学特論	3~8							
	理数物理	3~10							
	理数化学	3~10							
	理数生物	3~10							
	理数地学	3~10							
	○SS理数数学Ⅰ	5	5						5
	○SS理数数学Ⅱ	11		5		6	6	11	11
	○SS物理	6		2		4		6	6
○SS化学	6	2	2	2	2	2	6	6	
○SS生物	6	2	2	2	2	2	6	6	
○KCS	○KCS基礎	3	3						3
	○KCS探究	2		2					2
	○KCS発展	1				1			1
各学科に共通する各教科・科目の計			20	19		16		55	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	11		14		34	
学校設定教科に関する科目の計			3	2		1		6	
総合的な探究の時間 生き抜く力			3~6	0	0	0		0	
合 計			32	32		31		95	
特別活動	ホームルーム活動		1	1		1		3	
教育課程に係るその他の事項									
卒業までに修得させる単位数				95 単位	卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない			
学期の区分	○ 1 3学期制 2 2学期制			学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない				
1 単位時間の弾力化	○ 1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()								
学校外における学修の単位認定	○ 1 実施している 2 実施していない								
総合的な探究の時間の実施方法	○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。								
備 考	教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 「総合的な探究の時間」(3単位)は、「理数探究基礎」(1単位)、「理数探究」(2単位)で代替する。 1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 3年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5~9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8~12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数物理」(3~10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 「理数化学」(3~10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3~10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。								

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和7年度 入学者教育課程表 文理探究科

A 表

(表 面)

教育局	釧路	北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	文理探究科	第1学年の 学級数	4
-----	----	-------------	-------	----	-------	--------------	---

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年	計		
国語	現代の国語	2	2			2		
	言語文化	2	2			2		
	論理国語	4		2		0~4		
	文学国語	4		2	2	4		
	国語表現	4						
	古典探究	4		2	2	4		
地理歴史	地理総合	2	2			2		
	地理探究	3		3		0~3		
	歴史総合	2	2		3	2		
	日本史探究	3		3		0~3		
	世界史探究	3		3		0~3		
	○ゼミナール地理	3			3	0~3		
	○発展日本史	3			3	0~3		
	○発展世界史	3			3	0~3		
公民	公共倫理	2		2		2		
	政治・経済	2			2	0~2		
	○時事問題研究	3			3	0~3		
数学	数学 I	3	3			3		
	数学 II	4						
	数学 III	3						
	数学 A	2						
	数学 B	2						
	数学 C	2						
	○数学研究 I	2			2	0~2		
	○数学研究 II	2			2	0~2		
	○KS数学 I	2	2			2		
	○KS数学 II	6		6		6		
理科	科学と人間生活	2						
	物理基礎	2	2	★4		2		
	物理	4						
	化学基礎	2		2	☆14	※14	0~2	
	化学	4						
	生物基礎	2	2			2		
	生物	4						
	地学基礎	2		2		0~2		
	地学	4						
	○KS物理	2			2		0~2	
		5		2	3		0~5	
		○KS化学	2			2		0~2
			3			3		0~3
			5			5		0~5
○KS生物		2			2		0~2	
	4			4		0~4		
	5		2	3		0~5		
○KS地学	2			2		0~2		
保健体育	体育	7~8	2	2	3	7		
	保健	2	1	1		2		
芸術	音楽 I	2	2			0~2		
	音楽 II	2						
	音楽 III	2						
	美術 I	2	2			0~2		
	美術 II	2						
	美術 III	2		2				
	工芸 I	2						
	工芸 II	2						
	工芸 III	2						
	書道 I	2	2			0~2		
書道 II	2							
	書道 III	2						
	○音楽表現	2			2	0~2		
	○美術表現	2			2	0~2		
○書道表現	2			2	0~2			

A 表

(裏面)

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科

文理探究科

教科	科目・標準単位数	学年			計	
		1 年	2 年	3 年		
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		3	
	英語コミュニケーションⅡ	4	4		4	
	英語コミュニケーションⅢ	4		4	4	
	論理・表現Ⅰ	2				
	論理・表現Ⅱ	2	2		2	
	論理・表現Ⅲ	2		2	2	
	○応用英語	2		2	0~2	
	○SS英語	2	2		2	
家庭	家庭基礎	2	2		2	
	家庭総合	4				
情報	情報Ⅰ	2				
	情報Ⅱ	2				
	○SS情報	2	2		2	
理数	理数探究基礎	1				
	理数探究	2~5				
○総合	○Koryo Quest	3	3		3	
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	89	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0	
学校設定教科に関する科目の計		3	0	0	3	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)		3~6	0	2	1	3
合 計		32	32	31	95	
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	
教育課程に係るその他の事項						
卒業までに修得させる単位数		95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	○ 1 分離している ○ 2 分離していない	
学期の区分	○	1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位修得の認定	○ 1 実施している 2 実施していない	
1 単位時間の弾力化	○	1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()				
学校外における学修の単位認定	○	1 実施している 2 実施していない				
総合的な探究の時間の実施方法	○	1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。				
備 考		教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せで4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。				

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和6年度 入学者教育課程表 理数探究科

A 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵高等学校

全日制課程

学科 理数探究科

第1学年の
学級数

1

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年		2 年		3 年		計	
					α	β	α	β	α	β
国語	現代の国語	2	2							2
	言語文化	2	2							2
	論理国語	4								
	文学国語	4			2		2			4
	国語表現	4								
	古典探究	4			2		2			4
地理歴史	地理総合	2	2							2
	地理探究	3			3					0~3
	歴史総合	2	2		3					2
	日本史探究	3			3					0~3
	世界史探究	3			3					0~3
	○ゼミナール地理	3					3			0~3
	○発展日本史	3					3			0~3
	○発展世界史	3					3			0~3
公民	公共倫理	2			2			3		2
	政治・経済	2								
	○時事問題研究	3					3			0~3
	数学Ⅰ	3								
	数学Ⅱ	4								
数学	数学Ⅲ	3								
	数学A	2								
	数学B	2								
	数学C	2								
	理科	科学と人間生活	2							
物理基礎		2								
物理		4								
化学基礎		2								
化学		4								
生物基礎		2								
生物		4								
地学基礎		2								
地学	4									
保健体育	体育	7~8	2		2			3		7
	保健	2	1		1					2
芸術	音楽Ⅰ	2	2							0~2
	音楽Ⅱ	2								
	音楽Ⅲ	2								
	美術Ⅰ	2	2							0~2
	美術Ⅱ	2			2					
	美術Ⅲ	2								
	工芸Ⅰ	2								
	工芸Ⅱ	2								
	工芸Ⅲ	2								
	書道Ⅰ	2	2							0~2
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3							3
	英語コミュニケーションⅡ	4			4					4
	英語コミュニケーションⅢ	4					4			4
	論理・表現Ⅰ	2								
	論理・表現Ⅱ	2			2					2
	論理・表現Ⅲ	2					2			2
	○SS英語	2	2							2
家庭	家庭基礎	2	1							1
	家庭総合	4								
情報	情報Ⅰ	2								
	情報Ⅱ	2								
	○SS情報	2	1		1					2
理数	理数探究基礎	1								
	理数探究	2~5								

北海道釧路湖陵高等学校	全日制課程	学科	理数探究科
-------------	-------	----	-------

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年		2 年		3 年		計	
			α	β	α	β	α	β	α	β
理数	理数数学Ⅰ	5~9								
	理数数学Ⅱ	8~12								
	理数数学特論	3~8								
	理数物理	3~10								
	理数化学	3~10								
	理数生物	3~10								
	理数地学	3~10								
	○SS理数数学Ⅰ	5	5						5	
	○SS理数数学Ⅱ	11		5		6	6	11	11	
	○SS物理	6		2		4		6	6	
○SS化学	6	2	2	2	2	2	6	6		
○SS生物	6	2	2	2	2	2	6	6		
KCS	○KCS基礎	3	3						3	
	○KCS探究	2		2					2	
	○KCS発展	1				1			1	
各学科に共通する各教科・科目の計			20	19	16	55				
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9	11	14	34				
学校設定教科に関する科目の計			3	2	1	6				
総合的な探究の時間 生き抜く力			3~6	0	0	0	0			
合計			32	32	31	95				
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3				
教育課程に係るその他の事項										
卒業までに修得させる単位数			95 単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	1 分離している ○ 2 分離していない				
学期の区分			○ 1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位数	○ 1 実施している 2 実施していない				
1 単位時間の弾力化			1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()							
学校外における学修の単位認定			○ 1 実施している 2 実施していない							
総合的な探究の時間の実施方法			○ 1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。							
備考	1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 「総合的な探究の時間」(3単位)は、「理数探究基礎」(1単位)、「理数探究」(2単位)で代替する。 1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 2年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 3年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5~9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8~12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数物理」(3~10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 「理数化学」(3~10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3~10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。									

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和6年度 入学者教育課程表 文理探究科

A 表

(表 面)

第1学年の
学 級 数

4

教育局		釧路		北海道釧路湖陵高等学校		全日制課程		学科		文理探究科		
教科	科目・標準単位数	学年		1 年	2 年	3 年	計					
		標準単位数	類型									
国語	現代の国語	2		2			2				2	
	言語文化	2		2			2				2	
	論理国語	4			2		2				0~4	
	文学国語	4			2		2				4	
	国語表現	4										
	古典探究	4				2		2			4	
地理歴史	地理総合	2		2			2				2	
	地理探究	3			3						0~3	
	歴史総合	2		2							2	
	日本史探究	3			3						0~3	
	世界史探究	3			3						0~3	
	○ゼミナール地理	3						3			0~3	
	○発展日本史	3						3			0~3	
	○発展世界史	3						3			0~3	
公民	公共倫理	2			2					3	2	
	政治・経済	2						2			0~2	
	○時事問題研究	3						2			0~2	
		3						3			0~3	
数学	数学Ⅰ	3		3							3	
	数学Ⅱ	4										
	数学Ⅲ	3										
	数学A	2										
	数学B	2										
	数学C	2										
	○数学研究Ⅰ	2						2			0~2	
	○数学研究Ⅱ	2						2			0~2	
	○KS数学Ⅰ	2		2							2	
	○KS数学Ⅱ	6			6						6	
○KS数学Ⅲ	6						6			0~6		
○KS数学探究	6						6			0~6		
理科	科学と人間生活	2										
	物理基礎	2		2	★4						2	
	物理	4										
	化学基礎	2				2	☆14		※14		0~2	
	化学	4										
	生物基礎	2		2							2	
	生物	4										
	地学基礎	2				2					0~2	
	地学	4										
	○KS物理	2						2				0~2
		5						2		3		0~5
		2								2		0~2
		3								3		
		5								5		0~5
2									2		0~2	
○KS化学	2								2		0~2	
	4								4		0~4	
	5				2				3		0~5	
○KS生物	2								2		0~2	
	4								4		0~4	
	5				2				3		0~5	
○KS地学	2							2		0~2		
保健体育	体育	7~8		2			2		3		7	
	保健	2		1			1				2	
芸術	音楽Ⅰ	2		2							0~2	
	音楽Ⅱ	2										
	音楽Ⅲ	2										
	美術Ⅰ	2		2							0~2	
	美術Ⅱ	2										
	美術Ⅲ	2								2		
	工芸Ⅰ	2										
	工芸Ⅱ	2										
	工芸Ⅲ	2										
	書道Ⅰ	2		2							0~2	
書道Ⅱ	2											
書道Ⅲ	2											
○音楽表現	2							2		0~2		
○美術表現	2							2		0~2		
○書道表現	2							2		0~2		

教科	科目・標準単位数	学年			計
		1年	2年	3年	
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3		3
	英語コミュニケーションⅡ	4	4		4
	英語コミュニケーションⅢ	4		4	4
	論理・表現Ⅰ	2			
	論理・表現Ⅱ	2	2		2
	論理・表現Ⅲ	2		2	2
	○応用英語	2		2	0~2
○SS英語	2	2		2	
家庭	家庭基礎	2	2		2
	家庭総合	4			
情報	情報Ⅰ	2			
	情報Ⅱ	2			
	○SS情報	2	2		2
理数	理数探究基礎	1			
	理数探究	2~5			
○総合	○KQⅠ	1	1		1
	○KQⅡ	1	1		1
	○KQⅢ	1		1	1
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30	89
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0	0
学校設定教科に関する科目の計		1	1	1	3
総合的な探究の時間(生き抜く力)		3~6	2	1	4
合計		32	32	32	96
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3
教育課程に係るその他の事項					
卒業までに修得させる単位数		96単位		卒業に必要な履修と修得の単位数	○1分離している ○2分離していない
学期の区分	○	1 3学期制 2 2学期制		学期の区分ごとの単位数修得の認定	○1実施している 2実施していない
1単位時間の弾力化	○	1 標準の50分を1単位時間として実施する。 2 標準以外の単位時間を学校が設定して実施する。 [1日の授業時間を()分×()時間で実施] 3 いくつかの単位時間を組み合わせて実施する。 [1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]と、[1週のうち()日間を、1日当たり()分×()時間で実施]を組み合わせて実施する。 4 その他()			
学校外における学修の単位認定	○	1 実施している 2 実施していない			
総合的な探究の時間の実施方法	○	1 週時程に位置付けて実施する。 2 週時程に位置付けず、年間を通して又は特定の期間に実施する。			
備考		1年の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 2年の「論理国語」は、3年次も継続履修とする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究Ⅰ」は必ず履修するものとする。 「数学研究Ⅱ」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。			

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和8年度 学年別教育課程表 理数探究科

B 表

(表面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵 高等学校 全日制課程

学科 理数探究科

学級数	第1学年	1
	第2学年	1
	第3学年	1

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年			2 年		3 年	
					α	β	α (医歯類型含む)	β	
国語	現代の国語	2	2						
	言語文化	2	2						
	論理国語	4							
	文学国語	4			2		2		
	国語表現	4							
	古典探究	4				2		2	
地理歴史	地理総合	2	2						
	地理探究	3			3				
	歴史総合	2	2						
	日本史探究	3			3				
	世界史探究	3			3				
	○ゼミナール地理	3						3	
	○発展日本史	3						3	
	○発展世界史	3						3	
公民	公共倫理	2			2			3	
	政治・経済	2							
	○時事問題研究	2						3	
数学	数学 I	3							
	数学 II	4							
	数学 III	3							
	数学 A	2							
	数学 B	2							
	数学 C	2							
理科	科学と人間生活	2							
	物理基礎	2							
	物理	4							
	化学基礎	2							
	化学	4							
	生物基礎	2							
	生物	4							
	地学基礎	2							
保健体育	体育	7~8	2		2		3		
	保健	2	1		1				
芸術	音楽 I	2	2						
	音楽 II	2							
	音楽 III	2							
	美術 I	2	2						
	美術 II	2			2				
	美術 III	2							
	工芸 I	2							
	工芸 II	2							
	工芸 III	2							
	書道 I	2	2						
	書道 II	2							
書道 III	2								
外国語	英語コミュニケーション I	3	3						
	英語コミュニケーション II	4			4				
	英語コミュニケーション III	4					4		
	論理・表現 I	2							
	論理・表現 II	2			2				
	論理・表現 III	2						2	
○ S S 英語	2	2							
家庭	家庭基礎	2	1						
	家庭総合	4							
情報	情報 I	2							
	情報 II	2							
	○ S S 情報	2	1		1				
理数	理数探究基礎	1							
	理数探究	2~5							

B 表

(裏面)

北海道釧路湖陵

高等学校

全日制課程

学科

理数探究科・理数科

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年		2 年		3 年	
					α	β	α (医歯類型含む)	β
理数	理数探究基礎	1						
	理数探究	2～5						
	理数数学Ⅰ	5～9						
	理数数学Ⅱ	8～12						
	理数数学特論	3～8						
	理数物理	3～10						
	理数化学	3～10						
	理数生物	3～10						
	理数地学	3～10						
	○SS理数数学Ⅰ	5	5					
	○SS理数数学Ⅱ	11			5		6	6
	○SS物理	6			2			4
○SS化学	6	2	2	2	2	2	2	
○SS生物	6	2	2	2	2	2	2	
○KCS	○KCS基礎	3	3					
	○KCS探究	2			2			
	○KCS発展	1					1	
教員基礎	教員基礎	1			1			
	教員基礎探究	1						1
各学科に共通する各教科・科目の計			20		19		16	
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			9		11		14	
学校設定教科に関する科目の計			3		2		1	
総合的な探究の時間 (生き抜く力)			3～6	0	0		0	
合計			32		32～33		31～32	
特別活動	ホームルーム活動		1		1		1	
			<p>1年の「論理・表現Ⅰ」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 教科情報の「情報Ⅰ」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 「総合的な探究の時間」(3単位)は、「理数探究基礎」(1単位)、「理数探究」(2単位)で代替する。 1年の「理数探究基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 2年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS探究」(2単位)で代替する。 3年の「理数探究」(1単位)は、教科KCSの「KCS発展」(1単位)で代替する。 「家庭基礎」(1単位)は、教科KCSの「KCS基礎」(3単位)で代替する。 「理数数学Ⅰ」(5～9単位)は、教科理数の「SS理数数学Ⅰ」(5単位)で代替する。 「理数数学Ⅱ」(8～12単位)は教科理数の「SS理数数学Ⅱ」(11単位)で代替する。 「理数化学」(3～10単位)は教科理数の「SS化学」(6単位)で代替する。 「理数生物」(3～10単位)は教科理数の「SS生物」(6単位)で代替する。 「理数物理」(3～10単位)は教科理数の「SS物理」(6単位)で代替する。 3年の「ゼミナル地理」(3単位)は2年次に「地理探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展日本史」(3単位)は2年次に「日本史探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展世界史」(3単位)は2年次に「世界史探究」(3単位)を履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」「教員基礎探究」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。</p>					

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

令和8年度 学年別教育課程表 文理探究科

B 表

(表 面)

教育局 釧路

北海道釧路湖陵 高等学校 全日制課程

学科 文理探究科

学級数	第1学年	4
	第2学年	4
	第3学年	4

教科	科目・標準単位数	学年 類型	1 年			2 年			3 年		
国語	現代の国語	2	2								
	言語文化	2	2								
	論理国語	4			2				2		
	文学国語	4			2				2		
	国語表現	4									
地理歴史	古典探究	4			2					2	
	地理総合	2	2								
	地理探究	3			3						
	歴史総合	2	2		3						
	日本史探究	3			3						
	世界史探究	3			3						
	○ゼミナール地理	3							3		
	○発展日本史	3							3		
公民	○発展世界史	3							3		
	公共	2			2					3	
	倫理	2							2		
	政治・経済	2							2		
数学	○時事問題研究	2							3		
	数学 I	3	3								
	数学 II	4									
	数学 III	3									
	数学 A	2									
	数学 B	2									
	数学 C	2									
	○数学研究 I	2							2		
	○数学研究 II	2							2		
	○KS数学 I	2	2								
理科	○KS数学 II	6			6						
	○KS数学 III	6							6		
	○KS数学探究	6							6		
	科学と人間生活	2									
	物理基礎	2	2		★4						
	物理	4									
	化学基礎	2			2			☆14		※14	
	化学	4									
	生物基礎	2	2								
	生物	4									
	地学基礎	2			2						
	地学	4									
○KS物理	2							2			
○KS物理	5				2			3			
○KS化学	2							2			
○KS化学	3							3			
○KS化学	5							5			
○KS生物	2							2			
○KS生物	4							4			
○KS生物	5				2			3			
○KS地学	2							2			
保健体育	体育	7~8	2		2				3		
	保健	2	1		1						

B 表

(裏面)

北海道釧路湖陵

高等学校

全日制課程

学科

文理探究科

教科	科目・標準単位数 類型	学年		
		1 年	2 年	3 年
芸 術	音楽 I 2	2		
	音楽 II 2			
	音楽 III 2			
	美術 I 2	2		
	美術 II 2		2	
	美術 III 2			
	工芸 I 2			
	工芸 II 2			
	工芸 III 2			
	書道 I 2	2		
	書道 II 2			
	書道 III 2			
	○音楽表現 2			2
○書道表現 2			2	
○美術表現 2			2	
外 国 語	英語コミュニケーション I 3	3		
	英語コミュニケーション II 4		4	
	英語コミュニケーション III 4			4
	論理・表現 I 2			
	論理・表現 II 2		2	
	論理・表現 III 2			2
	○応用英語 2			2
	○SS英語 2	2		
家 庭	家庭基礎 2	2		
	家庭総合 4			
情 報	情報 I 2			
	情報 II 2			
	○SS情報 2		2	
理 数	理数探究基礎 1			
	理数探究 2~5			
の 組 合 可 能 な 選 修	○Koryo Quest 3	3		
	教員基礎 1		1	
	教員基礎探究 1			1
各学科に共通する各教科・科目の計		29	30	30
主として専門学科において開設される各教科・科目の計		0	0	0
学校設定教科に関する科目の計		3	0	0
総合的な探究の時間 (生き抜く力) 3~6		0	2	1
合 計		32	32~33	31~32
特別 活動	ホームルーム活動	1	1	1
備 考	<p>「情報 I」(2単位)は、教科情報の「SS情報」(2単位)で代替する。 1年の「論理・表現 I」(2単位)は、「SS英語」(2単位)で代替する。 ★について「論理国語」を履修した場合は「化学基礎」か「地学基礎」のいずれかを履修するものとする。 「論理国語」を履修しない場合は「化学基礎」を必ず履修し「KS物理」か「KS生物」のいずれかを履修するものとする。 ☆について「論理国語」を履修した場合は「倫理」「政治・経済」「数学研究 I」は必ず履修するものとする。 「数学研究 II」「音楽表現」「美術表現」「書道表現」「応用英語」から1科目を履修するものとする。 理科については「KS物理」「KS化学」「KS生物」「KS地学」から組合せて4単位を履修するものとする。 2年の「KS物理」及び「KS生物」(2単位)は、3年次も継続履修とする。 3年の「KS化学」(2単位)は、2年次に「化学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「KS地学」(2単位)は、2年次に「地学基礎」(2単位)を履修するものとする。 3年の「ゼミナール地理」(3単位)は2年次に「地理探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展日本史」(3単位)は2年次に「日本史探究」(3単位)を履修するものとする。 3年の「発展世界史」(3単位)は2年次に「世界史探究」(3単位)を履修するものとする。 ※について「KS数学Ⅲ」と「KS数学探究」のいずれかを履修するものとする。 北海道釧路江南高等学校で開設されている「教員基礎」「教員基礎探究」を道立高等学校間連携により選択することが可能である。 ※名称の前に○を付した教科又は科目は、学校が設定したものである。</p>			

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。

10 時程表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	定期試験	土曜授業
生徒登校	～8:30						
S H R	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40	8:30～ 8:40
1校時	8:45～ 9:35	8:45～ 9:35	8:45～ 9:35	8:45～ 9:35	8:45～ 9:35	8:50～ 9:40	8:45～ 9:35
2校時	9:45～ 10:35	9:45～ 10:35	9:45～ 10:35	9:45～ 10:35	9:45～ 10:35	9:55～ 10:45	9:45～ 10:35
3校時	10:45～ 11:35	10:45～ 11:35	10:45～ 11:35	10:45～ 11:35	10:45～ 11:35	11:00～ 11:50	10:45～ 11:35
4校時	11:45～ 12:35	11:45～ 12:35	11:45～ 12:35	11:45～ 12:35	11:45～ 12:35	△	11:45～ 12:35
昼休み	12:35～ 13:15	12:35～ 13:15	12:35～ 13:15	12:35～ 13:15	12:35～ 13:15		
予鈴	13:15	13:15	13:15	13:15	13:15		
5校時	13:20～ 14:10	13:20～ 14:10	13:20～ 14:10	13:20～ 14:10	13:20～ 14:10		
6校時	14:20～ 15:10	14:20～ 15:10	14:20～ 15:10	14:20～ 15:10	14:20～ 15:10		
7校時	△	15:20～ 16:10	△	15:20～ 16:10	△		
S H R	15:10～ 5:15	16:10～ 16:15	15:10～ 5:15	16:10～ 16:15	15:10～ 5:15	12:00～ 12:50	12:35～ 12:40
清掃	15:15～ 15:25	16:15～ 16:25	15:15～ 15:25	16:15～ 16:25	15:15～ 15:25	12:50～ 13:00	12:40～ 12:50

11 学年・分掌・委員会等

【HR担任】

学年	主任	副主任	学科	理数探究科	文理探究科					学年付	
			クラス	1組	2組	3組	4組	5組			
1	植地	松澤	HR担任	石田	植地	町田	澤田	松澤	岡田	白石	
			HR副担任	高橋	溝上	玉森	五十嵐	對馬	高坂		
2	大川原	市川	HR担任	片山	田口	市川	住本	大川原	兼子	畠中	
			HR副担任	池端	山形	井田	小川	百武	及川		
3	多田	田宮	HR担任	板橋	上内	中山	多田	田宮	弥田		
			HR副担任	有野	山木	関山	龜山	宮城	菊谷		

【校務分掌】

分掌名	部長	副部長	部員	人数
総務	池田	宮城	五十嵐 有野 松澤 兼子	6
教務	小華和	龜山	山木 池端 白石 百武 澤田 町田 及川	9
生徒指導	大川	小川	高坂 對馬 安田 板橋 井田	7
進路指導	浅野	弥田	関山 玉森 市川 植地 中山 住本 菊谷	9
保健	笹木	大川原	山形 田宮 岡田	5
SSH推進	大井	高橋翔	多田 片山 溝上 石田 田口 畠中	8
理数探求科	大井	板橋	石田 片山 板橋	4

* 主幹教諭 笹木、教務主任 小華和、生徒指導主事 大川、進路指導主事 浅野、保健主事 笹木

【教科主任】

教科	国語	地歴公民	数学	理科	保健体育	芸術	家庭	外国語	情報
主任	五十嵐	宮城	龜山	大井	笹木	中山	中山	小川	百武

【国や北海道教育委員会等から指定を受けている事業等】

事業主体	指定事業	担当教諭名
国（文科省等）	スーパーサイエンスハイスクール事業	SSH推進部長：大井
道教委	地域医療を支える人づくりプロジェクト事業医進類型指定校	医進類型委員会：玉森
	北海道立高等学校地域連携特例校・地域連携協力校（地域連携特例校：阿寒高等学校）	教務部長：小華和 進路指導部長：浅野 生徒指導部生徒会：對馬
道教委	ほっかいどう「こどもまんなか」学び創出事業	地歴公民科：畠中

【研究会当番校】

名称	日程	期間	主担当	業務担当教諭等（後日命課）
釧路管内高等学校教育研究会書道部会	未定	R8	中山	

【高体連・高文連等当番校】

分野	日程等	会場	主担当	業務担当教諭等
釧路根室管内高体連事務局	R8、R9		多田	對馬、笹木、澤田
バスケットボール・高体連支部大会	5月22～24日	ウインドヒルくしろスーパーアリーナ	弥田	住本 高橋翔 井田
弓道・高体連支部大会	5月22日	釧路市鶴ヶ岱武道館	多田	町田 菊谷
第10回北海道高等学校文化連盟 釧路支部軽音楽大会	4月22日	コーチャンフォー 釧路文化ホール	安田	副校長 教頭 百武 大川原 兼子 及川 菊谷 事務長
第62回高文連釧路支部新聞研究大会	6月下旬	釧路湖陵高等学校	小華和	後日命課

【委員会】

委員会名	委員長	部員
カリキュラム	教務部長	副校長（教頭） 教務部副部長 進路指導部長 S S H推進部長 理数科主任 各学年主任
業者選考	教頭	事務長 総務部長 各学年主任（但し見学旅行、BYODについて） 保健体育科主任（但し指定ジャージについて） 情報委員会担当者（但しBYODについて）
教科書採択	教務部長	副校長 各教科主任、教務教科書担当
入学者選抜	教務部長	副校長（教頭） 3学年団 理数探究・理数科担任 教務部員（山木 百武） 事務（2名）
学校保健	保健部長	教頭 教務部長 生徒指導部長 該当学年主任 養護教諭 産業医
サポート	保健部長	教頭 特別支援教育コーディネーター、教務部員（各学年1名）、該当生徒のHR担任、各学年主任、保健部、養護教諭
衛生（全定）	教頭（全）	教頭（定） 保健部長 養護教諭（全定） 事務主任 産業医
情報（全定）	全日制情報科教諭	教頭（全定） 1学年：田口 2学年：百武 3学年：山木 事務主任 定時制情報科教諭
医進類型	進路指導部長	副校長 教務部長 理数科長 理数探究科担任 数学科：浅野 理科：玉森 事務：事務部1名
S S H推進	S S H推進部長	副校長 教頭 S S H推進部員 理数科主任 各教科主任 S S H学校設定科目の教科担任 S S H支援員
地域連携特例校 地域連携協力校	教頭	教務部長 生徒指導部生徒会担当：対馬
教室のあり方 検討（全定）	教頭（全）	教頭（定） 総務部長 教務部長（定） 生徒指導部長 事務長
いじめ防止等対策	教頭（全）	生徒指導部長 保健部長 該当学年主任 該当HR担任 定時制（教頭 生徒指導部長 該当学年主任）
校内推薦選考	進路指導部長	教頭 3学年主任 宮城 小川 該当HR担任
校則見直し検討	教頭	生徒指導部長 各学年主任 生徒指導部生徒会担当 他概ね2名（公募）
学校パンフレット製作	副校長	概ね5名（公募）
推薦入試問題作成	副校長	教頭 他概ね4名（公募）
文理研究科推進	教務部長	副校長 教頭 S S H推進部長 進路指導部長 S S H推進部員 教務部員
推薦入試検討	副校長	分掌部長及び学年主任（この委員会の中に推薦入試問題作成委員会を置く）
学校広報	副校長	教頭、総務部、教務部、生徒指導部（生徒会）、進路指導部、S S H推進部

【専門委員等】

高体連校内理事	対馬
バレーボール道専門委員	有野
弓道道専門委員	多田
登山道専門委員	玉森

高文連校内理事	小華和
新聞支部専門委員	小華和
放送支部専門委員	片山
国際交流支部専門委員	高橋（翔）

12 分掌・学年の計画

分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
総務部	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学校行事の円滑な実施を通じて、地域や日本、国際社会の持続的発展に寄与するリーダーの育成を図る。 ○ 生徒の防災や危機に対する意識の向上を図る。 ○ 保護者・地域・中学校へ、学校の状況と教育の成果を積極的に情報提供する。 ○ 奨学金等の学修支援情報を遺漏なく広報する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種学校行事を円滑に実施する。 ・ 各学年で防災学習会、全校で複数の防災避難訓練を実施する。 ・ P T A総会等の実施、安心メールの活用、H P更新や学校だより等を発刊する。 ・ 各奨学金情報の掲示、案内及び奨学金ガイド等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分掌・学年・教科・事務・定時制と連携し、各種行事の目標が達成できたか。 ○ 防火防災意識の向上に努めるとともに、減災を意識した生活態度の涵養が図れたか。 ○ 保護者等、P T A・後援会・同窓会との連絡調整が適正に図れたか。 ○ 円滑な申請手続きが行われるよう、適切な情報提供等に努めることができたか。

分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
教務部 (学習指導)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 主体的に学ぶ力を育成し学力の向上を図る ○ 生徒の学習成果を公平かつ正当に判断する評価方法について、一層の改善を図る。 ○ 教科横断的な学習の充実に務める。 ○ I C Tの活用について研修を深める。 ○ 教育課程の適切な実施とその評価・改善・充実に努める。 ○ 校務支援システムの効果的な運用を図る。 ○ 学校の実態や社会の情勢に応じて教務内規を改定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の評価のあり方についての問題点を検証し、評価時期・評価方法のより適切なあり方を取り入れた内規の改正に散り組む。 ・ 教育課題を把握し、教科科目を越えて連携した授業の実施を促すとともに、各種研修会への積極的な参加を促し、その研修内容の共有化を図る。 教科横断的な授業の機会を設定する。 ・ I C Tを活用した授業研究を推進し、指導法の向上とその定着につとめる。また、生成A Iの教育への利用についても研修を行う。 ・ 授業実施時数を適切に管理し。授業時数の確保に努める。また、教育課程の適切な運用に向けて、運用方法や教育課程自体の見直しを図る。 ・ 校務支援システムの効果的かつ円滑な運用について研究し、職員に適切な情報を提供す ・ 現状に即した教務内規の見直し内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ より公平で時代の変化に適合し、本校の教育目標に合致する学習評価のあり方を考え、改善を行うことができたか。 ○ 公開授業週間を利用することにより、他教科が授業参加する機会を設定することができたか。 ○ 授業での活用を促すとともに、会議等校務の場面で積極的に運用することができたか。 ○ カリキュラム委員会等において、教育課程の検証・報告が行われたか。 ○ 校務支援システムのスムーズな運用ができたか。 ○ 教務内規の改定が適切であったか。

分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
生徒指導部 (生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自律性や社会性を培い、責任を持って行動できる個性ある生徒の育成 ○ 生徒が主体となって学校の諸課題を解決しようとする雰囲気醸成に努める。その際、『指導すべきこと』と『考えさせるべきこと』の両方の視点を忘れず生徒指導にあたることで、規範意識の向上や基本的生活習慣を育み、自己肯定感や自己指導力のある生徒の育成に努める。<u>(社会的資質や行動力等の向上)</u> ○ いじめ問題への対応を始め、適切な生徒指導が行えるよう、指導の際の留意点等についての共通認識が持てるように促す。<u>(いじめの未然防止と望ましい人間関係の形成)</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体で、気持ちの良い挨拶や返事の重要性について考え、生徒同士で高め合える環境作りを努める。 ・ スマホやタブレット等の使用方法やネットモラルに関する情報提供の場を設け、自律に基づき適切な行動を取れるよう指導する。 ・ 生徒会行事や部局活動、日々の生活の中で、一方的な指導に偏ることなく、生徒と共に考え、導く姿勢を持つ。 ・ 決められた規則に関しては、共通認識の中で統一した指導が行えるよう、イニシアティブを取りながら進める。 ・ 学年や分掌等との情報共有を密に行うことで、生徒理解に努めることで、いじめの未然防止に努める。 ・ いじめアンケートの結果等を先生方にフィードバックすることを通じて、いじめの実態把握と職員の情報共有を図る。 ・ 生徒への適切な関わり方や、適切な面談方法等について、先生方が研修できる場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 挨拶や返事などについて生徒が考えを深めたり、具体的に生徒同士で高め合っている場を設けることができたか。(ルール作りが難しいテーマについて、生徒が理解を深める手助けをする) ○ 学校が抱える諸課題の解決に関して、執行部をはじめとする生徒の声を反映させながら進めることができたか。(ルール作りのプロセスに生徒を巻き込みながら進める) ○ 身だしなみやスマートフォン使用のルール等について、共通の認識のもとで指導することができたか。(決まったルールに関しては、統一して指導する) ○ 学年・分掌との連携を密にし、生徒指導の充実に努めるとともに、保護者・地域社会・関係諸機関とも連携することができたか。 ○ いじめアンケートの教員向けフィードバック等を通じて、生徒状況の共有を図ることができたか。 ○ 生徒指導の場面や、生徒から相談を受けた場面(聞き取りの場面等)での留意点について、法的な視点も踏まえた研修を行うことで、適切な関わり方の幅を広げることができたか。

分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
進路指導部 (キャリア教育)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 自己理解を深め、主体的に考え、自らの力で進路を切り拓く能力を育成 ○ 3年間の見通しを持ち、志を高く持った進路指導、進路活動が出来るように指導方針を提示する。 ○ 生徒の学習状況を測定・分析し、課題の改善に生かす。 ○ 生徒のキャリアプランを構築するため、説明会等の実施形態を工夫する。 ○ 生徒・保護者を支援するため、教職員による情報収集を図り適切な情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が進路実現に向けて主体的に活動できるように教育課程を含んだ学校体制の改革に取り組む。 ・ 学習実態調査 (2回) や模試分析を行い、学年団で情報共有をすることで、生徒の主体的な学習の促進につなげる。 ・ 統一学校説明会、湖陵アカデメイア (語る会)、進路説明会・講演会・探究活動・AiGROW等を実施し、生徒が卒業後の視野を広げる機会を増やす。 ・ 教職員の各種研究会・検討会および入試説明会の案内、参加を促進し、進路説明会や進路通信等を利用し、情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年、各分掌と連携し、生徒が主体的な活動が出来るよう学校体制の改革に取り組むことができたか。 ○ 模試校内分析会の実施と生徒へのフィードバックを行い、生徒の主体的な学習の促進につなげることができたか。 ○ 生徒が卒業生の進路先での学びや、地域の職業人の職業観に触れる機会として、湖陵アカデメイアの開催を増やし、生徒の参加を促すことができたか。 ○ 変化しつつある大学のアドミッションポリシーや受験システムに対応するため、教職員の研修会を実施し、各種研究会や検討会の参加を促し生徒に適切な情報を発信できたか。
進路指導指針 1 「志を高く持ち、易きに流れない」 そのためには 2 「生徒に手をかけ、3年間をかけてじっくり伸ばす」 3 「授業を大切にするとともに、講習や説明会等に積極的に参加させる」 4 「文武両道の意味を理解させる」 自己の内面を成長させる学業以外の何かにも全力で取り組ませる			

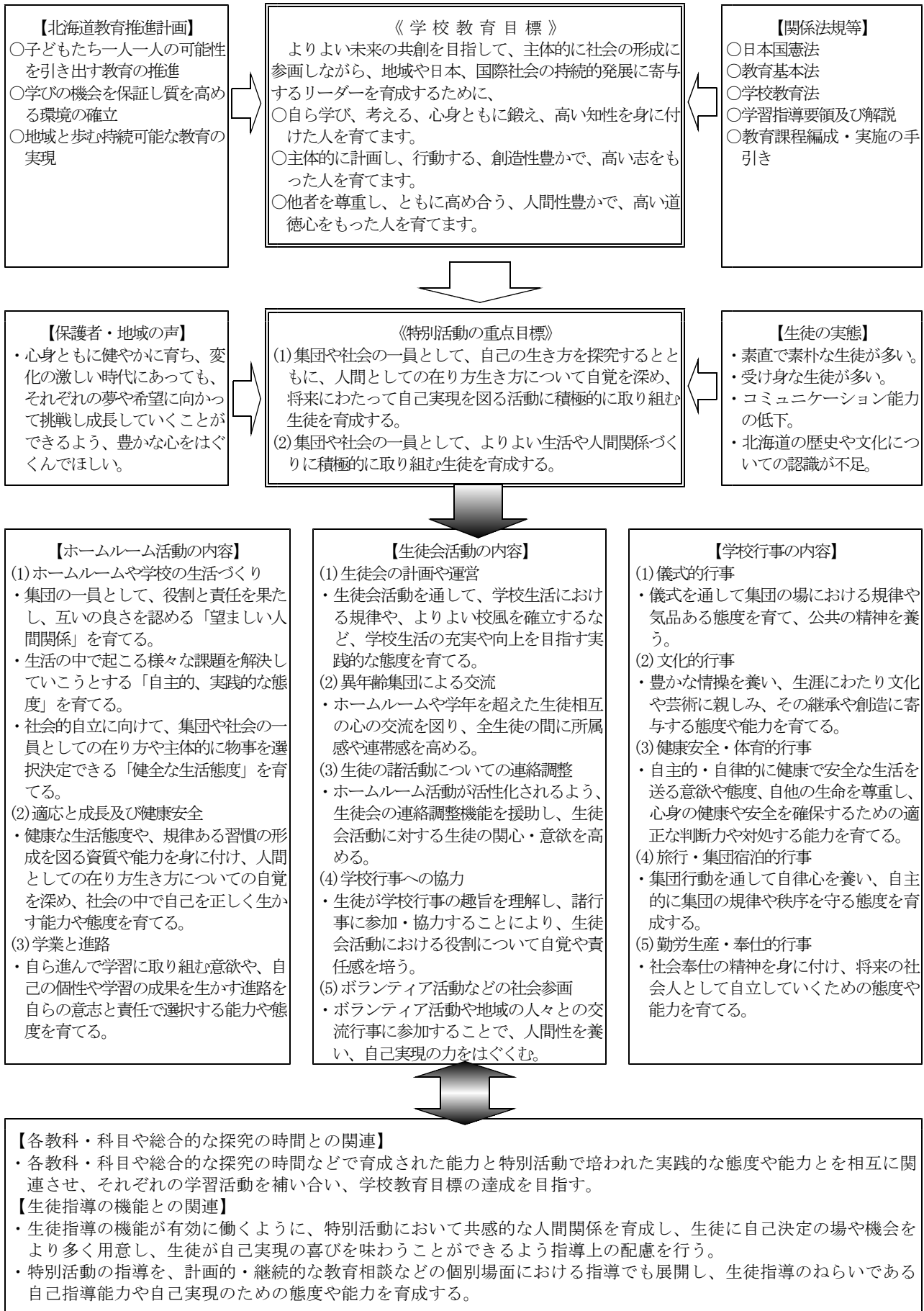
分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
保健部 (健康・安全指導)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 心身の健康増進及び安全、環境美化意識の高揚 ○ 心身ともに健康の保持増進の充実を図る。 ○ 教育相談に関する意識の向上と組織的な取組を推進する。 ○ 各種アンケートの活用方法と評価の改善・充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種健康診断、心と身体のチェック、及び個別面談を実施する。 ・ 日常の清掃活動やゴミの分別指導、大掃除等を円滑に運用する。 ・ ひだまり会議や個別面談・トレーニング、SC面談、外部機関との連携など、生徒を全体で見守る支援や、相談体制を継続する。 ・ SC講話の実施、心と身体のチェック、面談週間、ピアサポート研修会を設定し活用する。 ・ 学年やSSH推進部と連携し、心と身体のチェック、自己効力測定等のアンケートの実施する。 ・ 情報発信による啓発を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的な情報発信を行い、健康に対する意識を高め、自己管理や仲間のフォローができるように支援することができたか。 ○ サポート委員会や分掌、学年間の情報を共有するとともに、スクールカウンセラー等との連携を通じた、個々の生徒への適切な対応を行うことができたか。 ○ 各種アンケート実施結果を分析および活用し、スムーズに担任や全体に還元できたか。

分掌・学年	中期目標 (◎) と今年度の目標	実践計画	評価の観点
SSH推進部 (理数教育)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ SSH事業を活用した探究能力の育成 ○ Eプランによる研究支援の充実を図る ○ 外部連携の拡大により、探究的な学びの充実に努める ○ SSH事業の普及に努める ○ Koryo Agencyの育成を踏まえ、現行の取組の整理と改善を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ KCSやKQで探究活動を担当している教員と連携し、積極的にEプランの提案がなされる土壌づくりを行う ・ SSH特別科学講演会を実施する。卒業生調査システムを構築する。 ・ 運営指導委員やコンソーシアムによる探究活動の支援の充実を図る。 ・ 他のSSH指定校との連携を図る。 ・ 外部団体が実施する学会・発表会等への参加を促進する。 ・ 学校ウェブサイトやSSH事業の成果を発信する。 ・ 自己評価アンケートやAiGROWによる相互評価を年間2回以上実施し、コンピテンスに関わる調査の実施と分析を行う。 ・ 各学年の探究プログラムにおいて、育成すべきコンピテンスを意識しながら、実施・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ○ Eプランを作成する機会を設けることができたか ○ Eプランの申請件数が年間10件以上あったか。SSH特別科学講演会を年間10回以上実施できたか。 ○ コンソーシアムやSSH校と連携した取り組みを実施することができたか。 ○ 外部団体が実施する学会、発表会等への参加件数が年間15件以上あったか。 ○ SSH事業に関連した記事を年間20件以上掲載したか。 ○ 評価委員会を実施し、Koryo Agencyを構成するコンピテンスを測定する方法の研究開発できたか。 ○ 各探究プログラムにおいて、育成するコンピテンスを意識して取り組むことができたか。

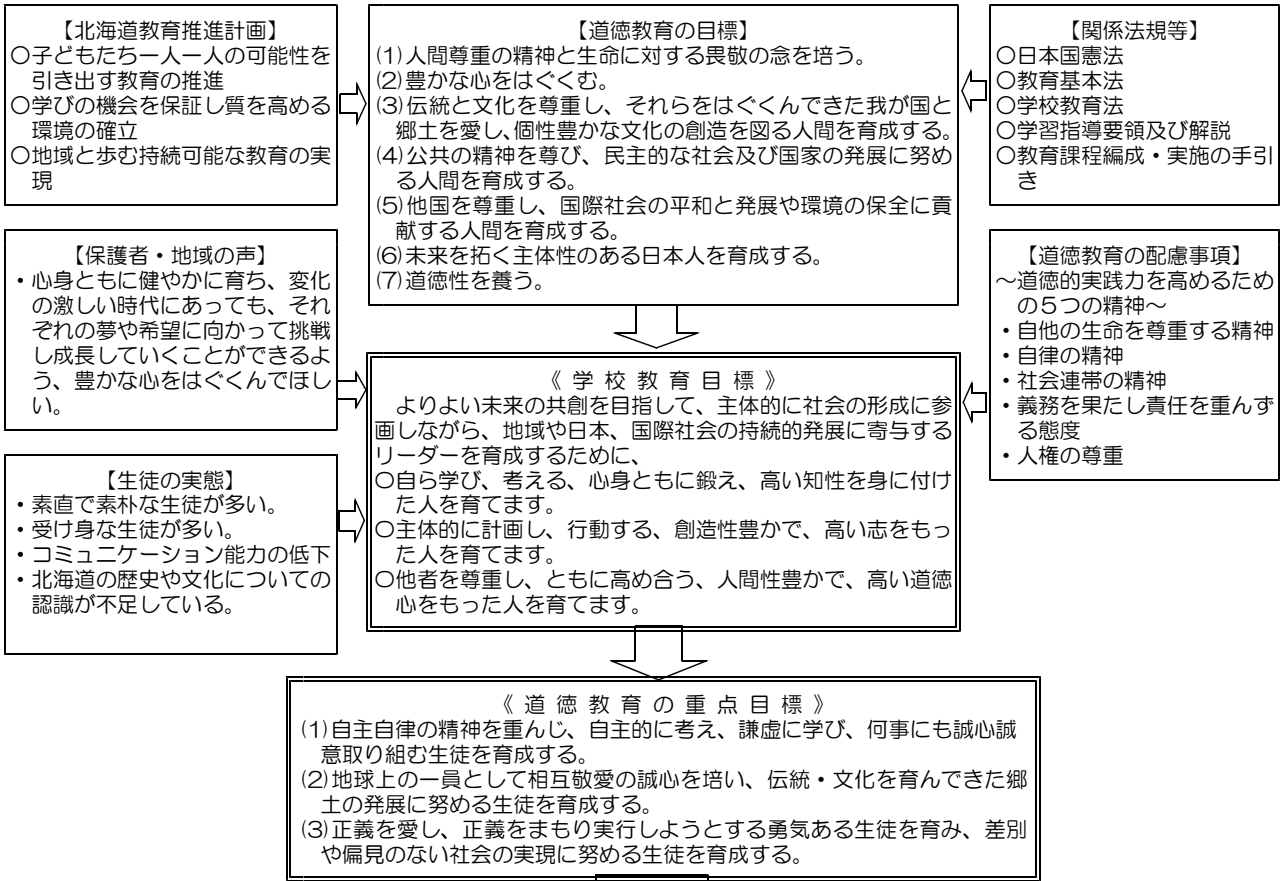
学年	今年度の目標	実践計画	評価の観点
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導 <p>基本的な生活習慣を確立させ、教育活動全般を通じて自立性、社会性を身につけた人格の形成を図る。</p> <p>情報機器端末の適切な活用について理解させる。</p> ○ 学習指導 <p>各教科の基礎・基本を定着させるため、教科間の連携を図りながら主体的に学ぶ習慣を確立させる。</p> <p>I C Tの活用等により、それぞれの生徒に応じた最適な学びを実現させる。</p> ○ 進路指導 <p>自己理解を深め、適切な文理選択ができるよう指導・支援を行い、進路実現に向けた学び合いができる集団の形成を図る。</p> ○ 健康安全指導 <p>心身の健康増進を図るため、生徒情報を共有して学年全体の相談体制を構築する。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年集会の実施 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・ 学年集会の実施 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 授業の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・ 学年集会の実施 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 進学講習（長期休業・放課後）の実施 各種進路説明会・進路講演会等の実施 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 ・ 学年集会の実施 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 学年会の実施及び関係する委員会等との連携 学年通信及び学級通信の活用 宿泊研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な規律に関する指導を継続的に実施することができたか。 自己理解を図るとともに、他人を思いやり尊重する態度を育成することができたか。 分掌等との連携により、S N S等の適切な活用方法について指導を行うことができたか。 ○ 基礎学力の定着に向け、授業への取り組み方や知識の活用方法について指導することができたか。 I C Tの活用等を通じて、生徒に応じた最適な学びを実現させることができたか。 ○ 教育活動全体を通じて、生徒個々の進路実現に向けた指導・支援に努めることができたか。 進学講習への積極的な参加を促し、学習意欲を向上させることができたか。 保護者等との連携を図り、学校と家庭が一体となって生徒を育成する体制を構築することができたか。 ○ 状況に応じた支援計画の作成や支援体制を構築することができたか。 帰属意識を高め、積極的に行事等に取り組む態度を養うことができたか。 清掃活動や美化活動を通して公共徳を養うとともに、H R教室を中心とした快適な学習環境を維持することができたか。

学年	今年度の目標	実践計画	評価の観点
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導 <p>各科目の知識・技能を定着させ、教科横断的な展開を図りながら思考力・判断力・表現力の向上を図る。</p> <p>学習効率を上げるために、I C T機器の活用を図る。</p> ○ 生徒指導 <p>基本的な生活習慣を確立させ、教育活動全般を通じて他と協働する社会性、自ら進んで行動する主体性を身につけた人格の形成を図る。</p> <p>積極的に地域社会へ参画する態度を養い、</p> ○ キャリア教育 <p>学力測定や自己分析を行い、進路選択・実現に向けた自己の在り方を深められるよう努める。</p> <p>進路実現に向けた集団形成を構築し、生徒・保護者への確かな情報提供・支援の充実を図る。</p> ○ 健康・安全指導 <p>生徒が自己管理できるアプローチを行い、生徒状況を共有して相談体制の確立に努める。</p> <p>防災対策や危機管理意識をもたせ、安全教育を推進する。</p> <p>見学旅行におけるよりよい人間関係の構築と安全管理に努める。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習習慣の確立 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 定期試験、模擬試験や検査の振り返り指導 探究活動の日常化 ・ 挨拶の励行 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 見学旅行の実施 ・ 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 長期休業中の講習・放課後講習の実施 進路に関する説明会・講演会・分析会の実施 ・ 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 清掃・環境美化活動の実施 見学旅行の計画・実施 学年会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 対話的に取り組み、他へアウトプットすることで深い学びを実現する。 クローズドブック等を活用し、表現力を伸ばさせ、成果を蓄積する。 分掌と連携し真理を探究する態度を醸成する。 ○ 基本的な規律に関する指導を継続的に実施する。 自己理解、他者理解に努め、他人を思いやる態度を育成し、よりよい集団を形成する。 分掌と連携していじめのない学年を目指す。 ○ 教育活動を通じて、総合型選抜や学校推薦型選抜にも対応できるように、生徒個々の進路実現に向けた指導・支援に努める。 講習や検定試験への積極的な参加を促し、学習意欲の向上に努める。 保護者等との連携を図り、生徒を育成する体制づくりに努める。 ○ 状況に応じた支援計画の作成や支援体制の構築に努める。 帰属意識を高め、集団に寄与する態度を養う。 清掃活動や美化活動を通して公共徳を養い、快適な学習環境の維持に努める。 安心安全な見学旅行の計画と実施を図る。

学年	今年度の目標	実践計画	評価の観点
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導 <p>I C T機器の活用と教科横断的な展開により、学力の向上を図る。</p> <p>探究活動を通して、思考力、判断力、表現力を身につけ、課題解決、発信ができるように努める。</p> ○ 生徒指導 <p>成人として自律心と自他を尊重する心を養い、地域社会に貢献する人材の育成を図る。</p> <p>いじめの防止と望ましい人間関係の形成に努め、主体的に協働する資質の育成を図る。</p> ○ キャリア教育 <p>自己理解を深め、互いに学び合う集団の形成を図る。</p> <p>I C T機器を活用して生徒・保護者等への確かな進路支援に努める。</p> ○ 健康・安全指導 <p>心身ともに健康で自己管理ができるよう、相談体制、サポート体制の確立に努める。</p> <p>防災対策や危機管理意識をもたせ、安全教育を図る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の質の向上 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 定期試験や模擬試験の振り返り指導 総合的な探究の時間の運用 ・ 挨拶の励行 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 ・ 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 各種講習の実施 進路に関する説明会・講演会・分析会の実施 ・ 学年集会の実施と通信の活用 L H Rの活用と個人面談・三者面談の実施 清掃・環境美化活動の実施 学年会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ I C T機器等を活用した授業内容の改善を通して学力向上に取り組む。 対話的に取り組み、表現力を伸ばさせ、成果を発信する展開を実施する。 ○ 行動規範を意識し、学校行事へ積極的に参画する態度の醸成に取り組む。 いじめのない、自他ともに尊重する集団の形成に取り組む。 ○ 模擬試験の実施と総合型選抜や学校推薦型選抜に対応した指導・支援に努める。 進路情報の収集と生徒や保護者へのフィードバックに取り組む。 ○ 支援計画の作成や支援体制の構築に取り組む。 日常的に防災意識・安全管理を意識した指導を実施する。



14 道徳教育全体計画



【教科・科目】 ・各教科・科目の目標を達成する学習活動の中で道徳性を育成する。 ・人間の在り方生き方に関する教育を、それぞれの教科・科目の特質に応じて実践する。		【特別活動】 ・集団活動を通して、個性の伸長を図り、自主的、実践的な態度を育て、人間としての在り方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を育てる。		【総合的な学習（探究）の時間】 ・各教科・科目及び特別活動で身に付けた知識や技能等を関連づけ、自己の在り方生き方について考えさせる。	
国語	表現力と理解力を育成するとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、道徳的心情・判断力を養う。言語文化への関心を深め、我が国と郷土を愛する態度を養う。	学級活動	・自己の役割を自覚し、責任を持って諸問題の解決にあたり、健全な生活態度を育てる。	生徒指導	【生徒指導】 ・登校指導における挨拶の励行、遅刻指導、頭髪及び服装指導 ・始業式、終業式やその他の全校集会・学年集会等での服装及び頭髪指導 ・列車、定期バス添乗指導
	地理歴史・公民	我が国及び世界の国々の伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献する態度を養う。 公民的資質の基礎の上に人間としての在り方生き方いわゆる倫理観を育てる。	生徒会活動		
数学	事象を数学的に考察し筋道を立てて考え、表現する能力を高め、道徳的判断力を育てる。	学校行事	・学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を促進し、生徒一人ひとりの集団への所属感、湖陵に対する愛校心を育てる。	【進路指導を通じた道徳教育】 ・進路研究・ガイダンスを通して、勤労の尊さ、創造することの喜び、望ましい勤労観・職業観の育成、社会奉仕の精神の涵養を図り、社会の構成員としての自覚を深め、知・徳・体の調和のとれた人間を育てる。	
理科	探究活動を通して、自然と人間のかかわりについて認識を深め、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を育てる。また、観察・実験を通して道徳的判断力や真理を大切にしようとする態度を育てる。	外国語	我が国や外国の言語・文化に対する理解を深め、世界の中の日本人であることを自覚するとともに、国際的視野に立って世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育てる。	【家庭・地域との連携】 ・学校、家庭、地域の相互理解に努め、協力体制を確立する。 ・地域ぐるみのふれあいを奨励し、協力する。(学校祭、夏祭り、定期演奏会等) ・家庭の道徳的教育力の向上を図る。	
保健体育	運動の実践を通して、ルールやマナーの遵守など、公正、協力、責任、参画に対する態度を育てる。また、健康の大切さを知り、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善しようとする態度を育てる。	家庭	勤労の尊さや家族・家庭の意義を理解し、家族への敬愛の念を深めるとともに、家庭や地域社会の一員としての自覚をもって自分の生き方を考え、生活をよりよくしていこうとする態度を育てる。		
芸術	芸術を愛好する心情を育て、感性を高め、美しいものや崇高なものを尊重する態度を育てるとともに、豊かな情操を養い道徳性の基盤を育成する。	情報	情報社会で適正な活動を行うためマナーやモラルを守ることの重要さの浸透に努める。		

15 学校保健計画

区分 月	月の 目標	学校 保健	保健管理		保健教育			組織活動 (連携)
			対 人 管 理	対 物 管 理	保健学習		個別・日常指導	
					体育科(保健) 1学年/2学年	関連教科 (家庭科)		
4	健康診断を受け、健康の状態を把握しよう	○大掃除 ○定期健康診断 ・身体測定 ・内科検診 ・歯科検診 ・心電図X線検診 ・尿検査 ○薬物乱用防止教室	○保健調査 ○健康相談 ○健康診断の計画・実施 ○疾病異常者の健康相談・生活指導	○清掃計画配布 ○大掃除の実施状況の点検	○健康の考え方と成り立ち・健康の定義 ○ライフステージと健康		○健康診断の意義と受け方 ○保健室の利用の仕方	○衛生委員会 ○学校三師(学校医・学校歯科医・学校薬剤師)との連携
5	学習環境と生活リズムを整えよう	○定期健康診断 ・尿検査 ・内科・歯科検診(欠席者対応) ○面談週間 ○SC講話(1年)	○健康相談 ○健康診断の実施と事後措置 ○疾病異常者の健康相談・生活指導 ○心と身体のチェック	○照度検査	○生活習慣病・がんについて ○性について		○健康診断事後指導	○衛生委員会 ○学校三師との連携
6	自己の健康状態を把握し疾病治療を継続しよう	○SC講話(2年)	○健康相談 ○熱中症予防	○空気検査	○運動・食事・休養・睡眠について ○結婚・妊娠・中絶について	○健康で快適な衣生活	○健康診断事後指導	○衛生委員会 ○学校三師との連携
7	心身の健康管理に努めよう	○湖陵祭 ○大掃除	○健康相談 ○熱中症予防 ○夏季休業の健康生活指導と健康管理	○大掃除の実施状況の点検	○喫煙について ○高齢者について		○健康診断事後指導 ○夏の健康生活	○衛生委員会 ○学校三師との連携 ○湖陵祭行灯PTA給水事業
8	もしもの時の応急処置を知ろう	○職員健診	○健康相談 ○熱中症予防		○飲酒・薬物乱用 ○保険制度と保健サービスの活用	○高齢者の心身の特徴	○心身の健康	○衛生委員会 ○学校三師との連携
9	生活習慣を確立しよう	○体育大会	○健康相談 ○体育大会救護 ○心と身体のチェック ○見学旅行前健康調査(2年)	○照度検査	○精神疾患について ○医療制度について		○体育大会に向けての安全指導・応急処置の知識	○衛生委員会 ○学校三師との連携
10	半期を振り返り後期の健康生活を計画しよう	○面談週間 ○SC講話(3年) ○見学旅行(2年)	○健康相談 ○見学旅行前健康調査(2年)	○水質検査	○現代の感染症について ○公害と健康	○乳幼児の心身の発達	○見学旅行に向けての体調管理	○衛生委員会 ○学校三師との連携 ○管内教育相談研究会
11	性について学ぼう	○ライフデザイン講座(1年)	○健康相談 ○感染症罹患状況把握		○健康に関する意志決定・行動選択 ○環境対策	○健康や環境に配慮した食生活	○性の指導 ○感染症の予防	○衛生委員会 ○学校三師との連携 ○校内研修
12	冬の健康管理をしっかりしよう	○大掃除	○健康相談 ○感染症罹患状況把握 ○冬季休業の健康生活指導と健康管理	○大掃除の実施状況の点検	○交通安全について ○食品の安全性について		○感染症の予防 ○冬の健康生活	○衛生委員会 ○学校三師との連携
1	感染症の予防に努めよう		○健康相談 ○感染症罹患状況把握		○交通安全について ○働くことと健康		○感染症の予防	○衛生委員会 ○学校三師との連携
2	心身の健康生活を実践しよう		○健康相談 ○感染症罹患状況把握 ○心と身体のチェック	○空気検査	○心肺蘇生法 ○健康的な職業生活		○感染症の予防	○衛生委員会 ○学校三師との連携
3	1年の生活を振り返り反省しよう	○大掃除	○健康相談 ○新年度の計画	○大掃除の実施状況の点検 ○保健室の整備	○応急手当について ○時事的な保健関連分野	○安全や環境に配慮した住生活	○感染症の予防 ○1年間の健康生活の反省 ○春の健康生活	○衛生委員会 ○学校三師との連携

16 学校安全計画

区分 月	月の 目標	学校 行事	安全管理		安全教育			組織活動 (連携)
			対人 管理	対物 管理	安全学習		安全指導	
					関連教科 体育・保健	理科・家庭 科・その他		
4	新しい環境に慣れ安全に通学しよう	湖陵の日交通安全防犯教室	通学状況調査 安全計画の策定	学校周辺における危険地域の確認	体育：安全な体育の授業を行う上でのルールと運動用具の使用と管理	理科：施設、設備、薬品管理等の点検	・既往症の確認 ・1年研修の安全について ・交通安全・薬物乱用防止に関する安全指導	学校医、学校歯科医、薬剤師との連携（毎月）
5	学校生活の安全を考えよう	高体連支部大会	避難体制の確認	防火設備（消火器、消火栓、火災報知器）の点検整備（毎月）	保健：意思決定・行動選択、事故への繋がりを考える。	理科：力の釣り合い、力学的エネルギー	・下宿生指導	衛生委員会
6	部活動での安全を考えよう	定期試験 高体連全道大会	部活動等加入生徒の健康状態把握	校舎内、グラウンド、体育館の安全点検	体育：球技における安全 保健：生活習慣病	家庭科：生活面での健康と安全について学ぶ	下宿生指導	学校保健委員会
7	湖陵祭を安全におこなう	避難訓練、湖陵祭、夏季休業中の生活指導	学校祭準備中の健康指導、行灯行列の交通指導、模擬店の食中毒防止指導	学校祭企画に使用する器具等について安全確認	保健：飲酒・薬・薬物乱用	家庭科：悪徳商法クーリングオフ等について学ぶ	・湖陵祭準備にあたる安全指導 ・夏季休業中の心得 ・夏の体調管理	行灯行列時の警察との連携 衛生委員会
8	体育大会での安全を考えよう	体育大会 統一学校説明会	体育大会での事故、負傷防止	体育大会実施会場の安全確認	体育：体育大会における安全	理科：熱と仕事	・体育大会にむけて（安全指導・応急処置の知識）	
9	屋外での活動の安全に努めよう	定期試験 ライフデザイン講座	地震・津波対策の徹底と対応の確認	防災設備の点検と整備	保健：感染症と予防	理科：重金属等の毒性 家庭科：高齢者の安全な生活	・見学旅行にむけて1	
10	見学旅行の安全を考えよう	見学旅行 保護者説明会	見学旅行安全対策の徹底	水質検査	保健：欲求と適応 規制・ストレス	理科：生物の環境応答 家庭科：子どもの安全	・見学旅行にむけて2 ・保健だよりの発行	衛生委員会
11	安全な通学に努めよう	定期試験	交通安全指導の徹底	通学路の安全点検	体育：冬季スポーツにおける安全 保健：環境対策	理科：運動量の保存、衝突について	薬物乱用の防止	管内教育相談研究会
12	事故や災害時の対応を考えよう	冬季休業中の生活指導	冬季休業中の生活安全指導	施設設備の安全点検	保健：交通事故・運転者の資質と背人／食品の安全性	理科：生態系の保全	・冬季休業中の心得 ・冬の体調管理	
1	冬季休業の安全な生活に努めよう	(共通テスト)	冬季通学路の安全確保	学校環境の安全点検	保健：安全な交通 社会作り／働くことと健康	理科：有機化合物の性質 家庭科：食生活の安全	・受験に向けての健康と安全	
2	室内の換気等安全な環境を維持しよう	定期試験 防災指導	換気、採光、設備等の点検と検査	二酸化炭素・相対湿度・室温検査	保健：心肺蘇生法／健康的な職業生活	家庭科：調理実習における安全	・LHRでの防災指導	衛生委員会 学校医からの安全指導
3	安全な生活について反省しよう	卒業式 修了式 年度末・始休業中の生活指導	今年度の活動の反省と次年度の計画立案	今年度の安全に関わる活動の評価	保健：応急処置／時事的な保健関連分野	家庭科：住生活面における安全	・年度末・始休業中の心得 ・一年間の評価と反省	活動の評価と反省

17 部活動・外局

(1) 部活動

【体育系】		顧問	部員数	
1	陸上競技	松澤・溝上	23	
2	剣道	百武・池端	5	
3	野球	大川・小川・兼子	23	
4	サッカー	板橋・関山	25	
5	卓球	田口・畠中	20	
6	山岳	玉森・石田・畠中	20	
7	弓道	多田・町田	37	
8	バスケット ボール	男子	弥田・住本	28
		女子	高橋（翔）・井田	12
9	テニス	山形・白石	13	
10	ソフトテニス	池田・及川	27	
11	バレーボール	男子	有野・對馬	12
		女子	宮城・浅野	13
12	バドミントン	山木・五十嵐・高橋康	26	
13	ハンドボール	大川原・澤田	31	
14	アイスホッケー	中山・兼子	9	
15	空手	高坂・亀山	3	

【文化系】		顧問	部員数	
1	茶道	植地	岡田・菊谷	11
2	文芸	田宮		7
3	家政	中山		13
4	書道	中山	弥田・笹木	18
5	写真	白石		15
6	美術	池端		21
7	器楽	市川・菊谷		47
8	探究	物理	SSH 推進部員	4
		化学		7
		生物		5
9	音楽研究	安田・亀山		32
10	合唱	高坂・安田		5
11	演劇	小華和		1
12	外国語	高橋（翔）・ALT		21

(2) 外局

【外局】		顧問	局員数	
1	応援団	応援	生徒指導部	19
		チアリーディング	笹木・岡田	21
2	図書	教務部		9

【外局】		顧問	局員数	
3	放送	片山	百武・大川原・ 及川	5
4	新聞	小華和		4

* 数字は令和8年5月1日現在

* 加入率100%（但し兼部を含む）

18 学校図書館

図書館の規模・設備

	面積	机		椅子	書架	ロッカー	その他
閲覧室	235.80㎡	2人用	6人用	62	47	カバン、コート用 (30)	新聞閲覧台(2) ラウンドケース(9)、長いす(2)
		10	7				
司書室	39.77㎡	個人用	6人用	2	0	4	
		2	2				
作業室	18.00㎡	個人用	6人用	6	0	0	
		0	1				
書庫	34.03㎡	個人用	6人用	1	移動式 (14)	0	
		0	1				

蔵書構成（NDC）

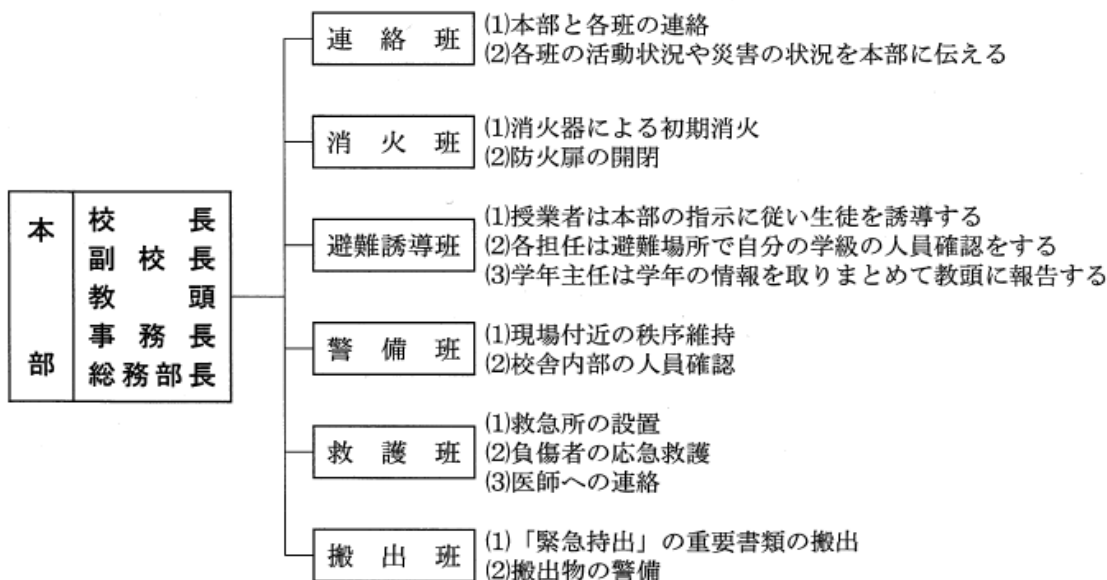
（令和8年3月31日現在）

分類	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工業	産業	芸術	言語	文学	合計	
(NDC)	000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	0~9	
蔵書冊数	656	1403	2466	2421	2693	908	290	2186	788	8085	21896	
比率	基準	6	9	15	11	16	6	5	7	6	19	100%
蔵書	本校	3.0%	6.4%	11.3%	11.1%	12.3%	4.1%	1.3%	10.0%	3.6%	36.9%	100%

* 蔵書配分比率の標準は全国学校図書館協議会2000年3月21日制定「学校図書館メディア基準」による

19 学校防災組織

全 日 制



○本 部 (1)災害の校内通報 (2)状況の判断と各班への指示 (3)避難場所の指示 (4)関係機関への連絡

20 生徒状況

通学方法（複数回答あり）

	徒歩	自転車	バス	列車	送迎
1年	57	28	92	5	52
2年	42	29	70	10	70
3年	37	32	75	5	61
計	136	89	237	20	183

生活状況

	自宅	下宿	アパート	その他
1年	191	7	0	2
2年	182	12	1	0
3年	177	17	0	1
計	550	36	1	3

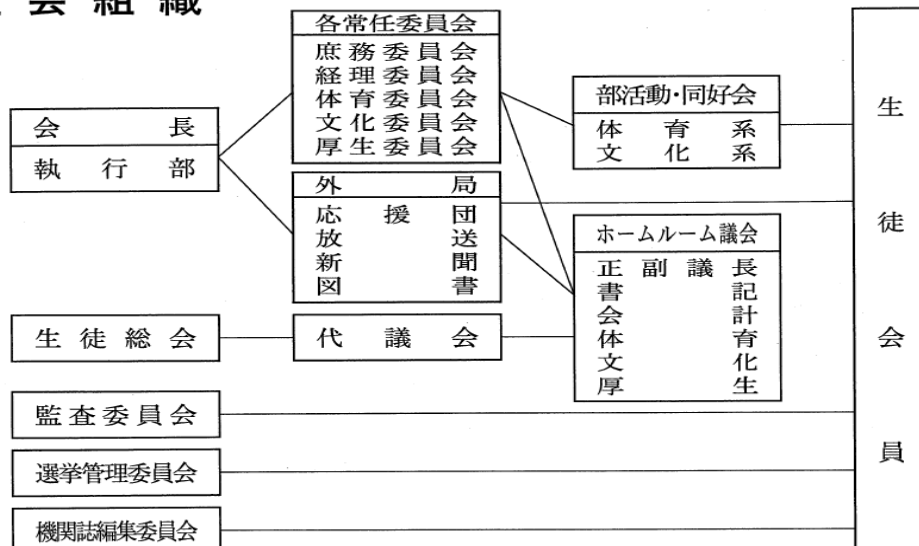
列車通学生内訳

学年	根室本線							花咲線							釧網線			合計		
	新富士	新大楽毛	大楽毛	庶路	西庶路	白糠	音別	別保	上尾幌	尾幌	門静	厚岸	茶内	浜中	遠矢	庶路	標茶		磯分内	摩周
1年					1		1										2		1	5
2年							1						1				6		2	10
3年						1	1					1					1		1	5
計					1	1	3					1	1				9		4	20

令和7年度卒業生 進路決定状況

	卒業生	就職希望者	進学希望者	決定者										未決定
				大学			準大学	国公立短大	私立短大	専修学校	公務員	民間就職	計	
				国公立	私立	計								
数	234	2	232	123	67	190	2	1	1	12	2	0	18	26
%		1	99	53	29	81	1	0	0	5	1	0	8	11

21 生徒会組織

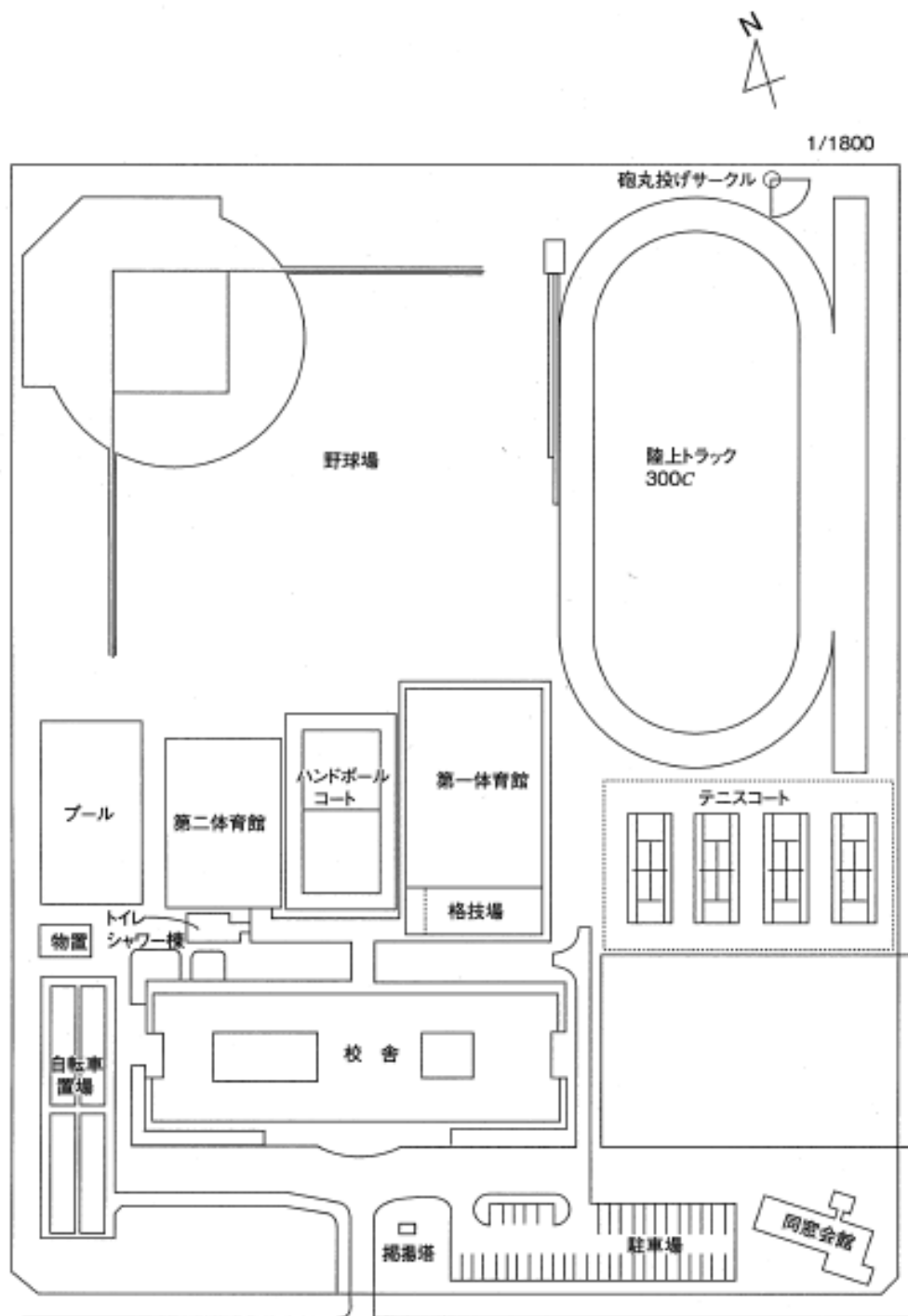


22 卒業生概況

卒業年月	回数	男	女	計	卒業年月	回数	男	女	計	卒業年月	回数	男	女	計
大 7 . 3	1	31			昭 29 . 3	6	229	192	421	平 3 . 3	43	253	183	436
8 . 3	2	29			30 . 3	7	214	178	392	4 . 3	44	251	189	440
9 . 3	3	27			31 . 3	8	208	185	393	5 . 3	45	232	204	436
10 . 3	4	19			32 . 3	9	229	186	415	6 . 3	46	230	200	430
11 . 3	5	22			33 . 3	10	251	153	404	7 . 3	47	225	211	436
12 . 3	6	32			34 . 3	11	248	143	391	8 . 3	48	229	203	432
13 . 3	7	58			35 . 3	12	248	131	379	9 . 3	49	219	190	409
14 . 3	8	73			36 . 3	13	265	139	404	10 . 3	50	204	191	395
15 . 3	9	65			37 . 3	14	226	138	364	11 . 3	51	167	187	354
昭 2 . 3	10	102			38 . 3	15	246	136	382	12 . 3	52	179	166	345
3 . 3	11	110			39 . 3	16	231	149	380	13 . 3	53	181	170	351
4 . 3	12	103			40 . 3	17	292	149	441	14 . 3	54	173	184	357
5 . 3	13	112			41 . 3	18	281	135	416	15 . 3	55	141	172	313
6 . 3	14	102			42 . 3	19	281	154	435	16 . 3	56	156	163	319
7 . 3	15	117			43 . 3	20	275	185	460	17 . 3	57	149	165	314
8 . 3	16	112			44 . 3	21	277	138	415	18 . 3	58	140	170	310
9 . 3	17	114			45 . 3	22	301	121	422	19 . 3	59	136	141	277
10 . 3	18	118			46 . 3	23	281	115	396	20 . 3	60	118	159	277
11 . 3	19	116			47 . 3	24	246	127	373	21 . 3	61	147	129	276
12 . 3	20	137			48 . 3	25	252	117	369	22 . 3	62	137	140	277
13 . 3	21	122			49 . 3	26	235	133	368	23 . 3	63	133	144	277
14 . 3	22	142			50 . 3	27	279	111	390	24 . 3	64	121	120	241
15 . 3	23	143			51 . 3	28	243	137	380	25 . 3	65	140	135	275
16 . 3	24	129			52 . 3	29	258	125	383	26 . 3	66	117	119	236
17 . 3	25	150			53 . 3	30	252	138	390	27 . 3	67	118	120	238
18 . 3	26	137			54 . 3	31	285	135	420	28 . 3	68	116	118	234
19 . 3	27	133			55 . 3	32	291	138	429	29 . 3	69	114	123	237
20 . 3	28	161			56 . 3	33	272	148	420	30 . 3	70	118	115	233
	29	199			57 . 3	34	277	157	434	31 . 3	71	116	124	240
21 . 3	30	82			58 . 3	35	301	124	425	2 . 3	72	118	119	237
22 . 3	31	141			59 . 3	36	279	147	426	3 . 3	73	105	126	231
23 . 3	32	235			60 . 3	37	269	157	426	4 . 3	74	106	111	217
24 . 3	33	43			61 . 3	38	263	148	411	5 . 3	75	120	102	222
24 3	1	120			62 . 3	39	262	174	436	令 6 . 3	76	129	103	232
25 . 3	2	184			62 . 3	39	262	174	436	7 . 3	77	101	116	217
26 . 3	3	167	115	282	63 . 3	40	249	168	417	8 . 3	78	122	112	234
27 . 3	4	180	136	316	平 1 . 3	41	267	144	411					
28 . 3	5	180	161	341	2 . 3	42	253	169	422					

卒業生計 30,590 名 内訳 旧中 3,416 名 高男15,909名 高女 11,265名

23 校舎配置図



校地面積		54,900.00㎡
校舎	10,576.20㎡	
体育館	1,350.45㎡	
格技場	310.50㎡	
第二体育館	835.20㎡	
廊下	204.00㎡	
ギャラリー	298.39㎡	
トイレ・シャワー棟	77.29㎡	
その他	163.00㎡	
計	13,815.03㎡	

25 PTA等役員（Web版では掲載せず）